

名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2012



Nagoya University Campus Sign Manual 2012



名古屋大学 施設計画推進室・工学部施設整備推進室・広報室・施設管理部
design|Campus Planning and Management Office, Nagoya University



名古屋大学東山キャンパス全景

サイン | sign

- ①合図。記号。信号。また、看板。
- ②野球などで、味方どうしで交わす手振りなどによる指示。
- ③署名。

(広辞苑 第六版, 岩波書店, 2008)

サイン原義 | しるし, 記号 . cf. assign, design, resign. [派] signal, signature

- (名)
 - ①表れ、しるし、徴候、前兆、証拠、気配、痕跡、形跡、足跡
 - ②標識、標示、看板、
 - ③身ぶり、手まね、合図、信号、暗号、サイン
 - ④符号、記号
 - ⑤宮《zodiacの12区分の1つ》、お告げ、奇跡
- (動・他)
 - ①署名する、サインする、署名されている
 - ②(契約)を結ぶ、契約する、署名させて雇う
 - ③合図する、(身振りで)知らせる
- (動・自)
 - ①署名する、契約する、調印する、契約書に署名して雇われる
 - ②合図する

(ジーニアス英和辞典 第4版, 大修館書店, 2008)

1 基本理念	
-	1.1 はじめに
-	1.2 サイン計画の基本方針
-	1.3 サイン計画の対象とシステム
-	1.4 本マニュアルの構成
-	1.5 本マニュアルの運用
2 サインの現状把握と課題	
-	2.1 全学案内サイン
-	2.2 部局エリア案内サイン
-	2.3 矢印サイン
-	2.4 建物名サイン
-	2.5 建物内サイン
-	2.6 交通標識・規制・広告サイン等
3 共通デザインガイドライン	
-	3.1 設置位置・設置形態
-	3.2 表記内容
-	3.3 ロゴデザイン
-	3.4 使用言語・書体
-	3.5 色彩
-	3.6 素材・仕上
-	3.7 ピクトグラム
4 外構サイン	
-	4.1 全学案内サイン
-	4.2 エリア案内サイン
-	4.3 通り名サイン（案）・矢印サイン
-	4.4 建物名サイン
-	4.5 外構サインの配置
5 建物内サイン	
-	5.1 総合案内板
-	5.2 各階案内板
-	5.3 組織・室名サイン
-	5.4 ピクトサイン
6 その他案内サイン	
-	6.1 規制サイン
-	6.2 交通標識
-	6.3 イベント情報掲示板
-	6.4 広告サイン・サークル看板等
-	6.5 モニュメント
-	6.6 危険物表示サイン
-	6.7 省エネ啓発サイン
7 資料編	
	-
	名古屋市景観計画
	高度地区
	校名サイン（案）
	他大学サイン事例

基本理念

Basic Idea

- 1.1 | はじめに
- 1.2 | サイン計画の基本方針
- 1.3 | サイン計画の対象とシステム
- 1.4 | 本マニュアルの構成
- 1.5 | 本マニュアルの運用



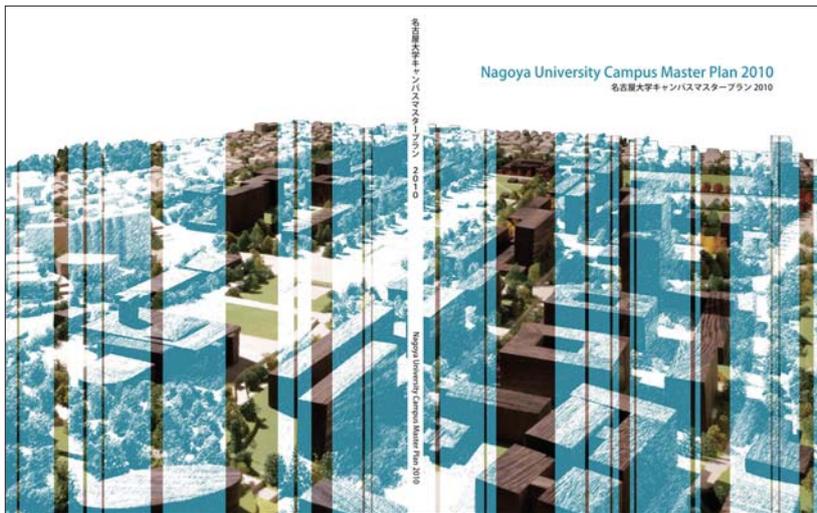


図 1-1 名古屋大学キャンパスマスタープラン 2010 表紙

1-1 はじめに

—世界屈指の知的成果を生み出すエコキャンパスを目指して—

名古屋大学は、2010年3月に『名古屋大学キャンパスマスタープラン 2010』（図 1-1）を発行し、「世界屈指の知的成果を生み出すエコキャンパス」という目標のもとに、30年先を見据えた整備計画を提示した。同マスタープラン第3章「3-8-3 サインに関するデザインガイドライン」では、「サインマニュアルを定め全学的統一化をはかる」と述べられ、詳細を規定するマニュアルの制定が課題となっていた。

これまでも、サインマニュアルは存在したものの、現在設置されているサインには、複数のデザインが混在するとともに、サインの設置位置や包括範囲などにおいて多くの問題を抱えており、必ずしも全学的にサインのシステムやデザインにおける共通認識がもたれていたとは言い難い。これが一因となって来訪者から「わかりにくい」、「迷いやすい」といった指摘も多く寄せられている。今後、さらなる国際化に対応し、地域に開かれた大学として、また、高齢者や車いす使用者等、あらゆる人にわかりやすいキャンパスとするためにも、改めてサインマニュアルを定め、全学的な共通基準としていくことが求められる。さらに、サインのデザイン共通化は、大学固有のイメージ形成や発信にも寄与するであろう。

『名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2012』は、こうした目的を達成するために、サイン計画や保守に関わる関係者が共通認識をもつための基本方針である。なお、本マニュアルにおいては主に東山キャンパスにおける課題からマニュアルの策定を行っていくが、鶴舞キャンパス・大幸キャンパスなど名古屋大学を構成する他キャンパスへの適用も想定している。

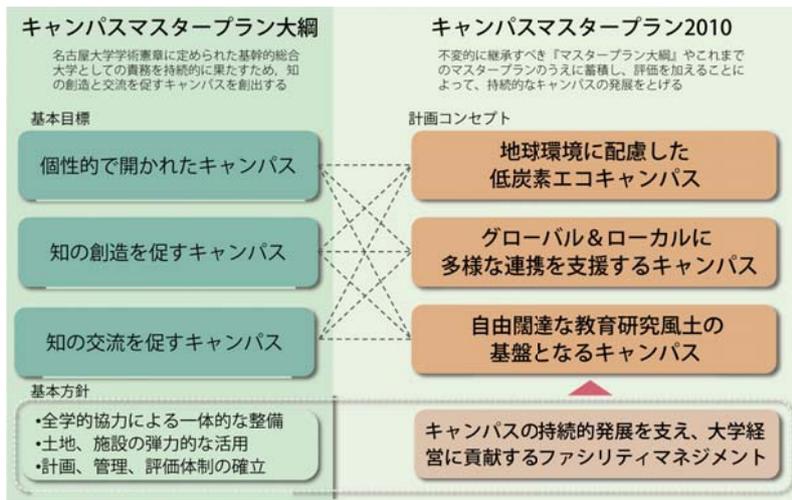


図 1-2 キャンパスマスタープラン 2010 のコンセプトと大綱の関係



図 1-3 名古屋市歩行者系サインマニュアル 表紙

1-2 サイン計画の基本方針

「グローバル＆ローカルに多様な連携を支援するキャンパス」の実現のためにー

前述した『名古屋大学キャンパスマスタープラン 2010』では、計画コンセプトとして、

- (1) 「地球環境に配慮した低炭素エコキャンパス」
- (2) 「グローバル＆ローカルに多様な連携を支援するキャンパス」
- (3) 「自由闊達な教育研究風土の基盤となるキャンパス」

が掲げられ、これらの実施とともに、

- (4) 「キャンパスの持続的発展を支え、大学経営に貢献するファシリティマネジメント」

の実施が、上記の計画コンセプトを支える運営コンセプト（図 1-2）とされている。とくに、計画コンセプト（2）は、国内外のあらゆる来訪者にとって分かりやすいサイン計画を要求するものである。

名古屋大学のキャンパスでは、本学職員・学生に限らず多種多様な人々がキャンパス内を移動し、様々な活動を行っている。また本学では、多くの留学生や外国人研究者を受け入れ、公共団体・民間企業・地域社会との相互協力を進め、様々なかたちで、社会にむけての大学開放の努力が払われている。「濱口プラン」では「名古屋大学から NAGOYA UNIVERSITY へ」を最重要コンセプトに掲げており、今後こうした活動はますます拡大する。本学関係者といえども広大なキャンパスの全貌を認知することは困難であり、サインマニュアルは、キャンパスの国際化や地域連携を進めるために、高齢者や車いす使用者等、あらゆる人にわかりやすく、アクセスしやすいキャンパスとなるよう、ユニバーサルデザインの理念に則って整備を進めることを目指す。

東山キャンパスでは、豊田講堂などのランドマークや、グリーンベルトや東山丘陵など特徴的なランドスケープが存在する。こうした建築・環境自身もつ特性は、キャンパスの分かりやすさにとって不可欠である。キャンパスの環境整備においてはこうした特性を最大限に生かし、文字や図面によるサインはこうした周囲の環境情報を活用し、これを補助するものとする。

さらに近年では、インターネットでマップ等のキャンパス情報を取得してから来訪する方が増え、そうしたホームページ上の情報と、学内に設置されたサインの不整合が混乱を引き起こすことも指摘されている。したがって、ホームページ上のマップやイベント情報等との整合や統一化も求められる。

なお、名古屋大学の主なキャンパスが名古屋市内立地していることを考慮し、本マニュアルの策定にあたっては、『名古屋市歩行者系サインマニュアル』（図 1-3）を適宜参照している。

キャンパスマスタープラン 2010

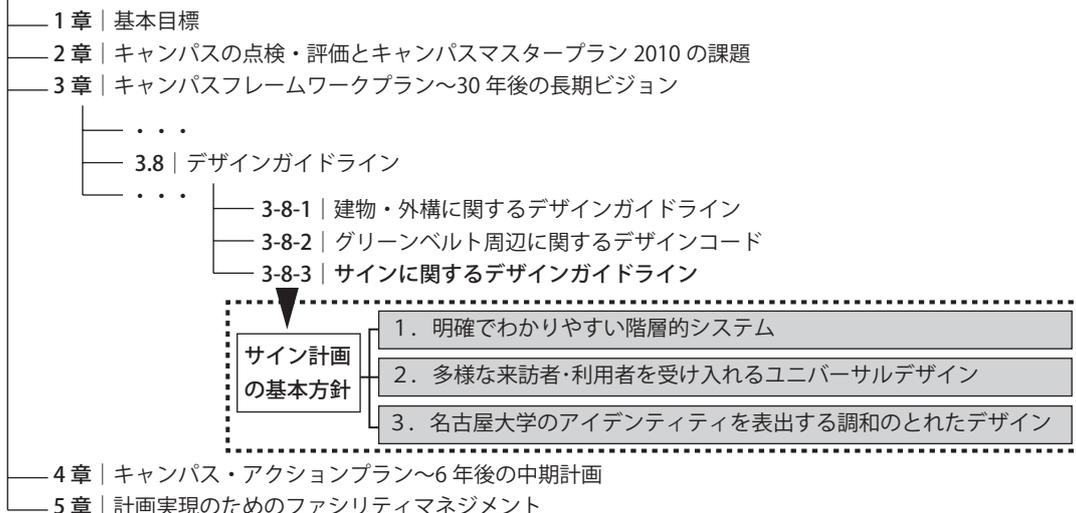


図 1-4 キャンパスマスタープラン 2010 とサインマニュアルの関係およびサイン計画の基本方針

キャンパスマスタープラン 2010 とサインマニュアルの関係を確認した上で、サイン計画の基本方針を以下のとおり定める。

基本方針 1. 明確でわかりやすい階層的システム

- ・ **明快な誘導システム** | 来訪者を円滑に誘導するために、表示内容に明確な階層性をもたせ、適切な位置に適切な情報を表すサインを配置する明快な誘導システムとする。
- ・ **デザインガイドライン** | キャンパス全体でのサインシステムの一貫性を保つために、屋内外のサインに使用する文字、色彩、寸法、素材、形態、仕上などのデザインガイドラインを定める。
- ・ **情報の統一** | さまざまなメディアとの整合をはかり、特にインターネット、ホームページ上の電子情報との統一をはかる。

基本方針 2. 多様な来訪者・利用者を受け入れるユニバーサルデザイン

- ・ **アクセシビリティ** | キャンパスを訪れる人々にとって理解しやすく、アクセスがしやすいサイン計画とする。
- ・ **国際化** | 表示文字は日本語と英語を必ず併用する、国際基準に基づいたピクトグラムを用いるなど国際化に対応したデザインとする。
- ・ **ユニバーサルデザイン** | 車いす使用者に配慮した高さや、弱視・色弱でも見やすい色彩など、だれもが利用可能なデザインとする。
- ・ **安全性** | 不特定多数の方が集まる講義室等における避難ルートの表記など、安全性に配慮したサイン計画とする。

基本方針 3. 名古屋大学のアイデンティティを表出する調和のとれたデザイン

- ・ **アイデンティティの表出** | UI カラーである NU グリーンを基調色とした NU マークを明示し、名古屋大学のアイデンティティを表出するデザインをめざす。
- ・ **環境との調和** | キャンパス内の環境の特質を活かし、調和を図るため、文字や図面によるサインは必要最小限にとどめる。
- ・ **更新性** | 長期にわたり継続可能なサインシステムとして、新設・更新・維持・撤去に関する運用方針を定め、更新性にすぐれたデザインとする。

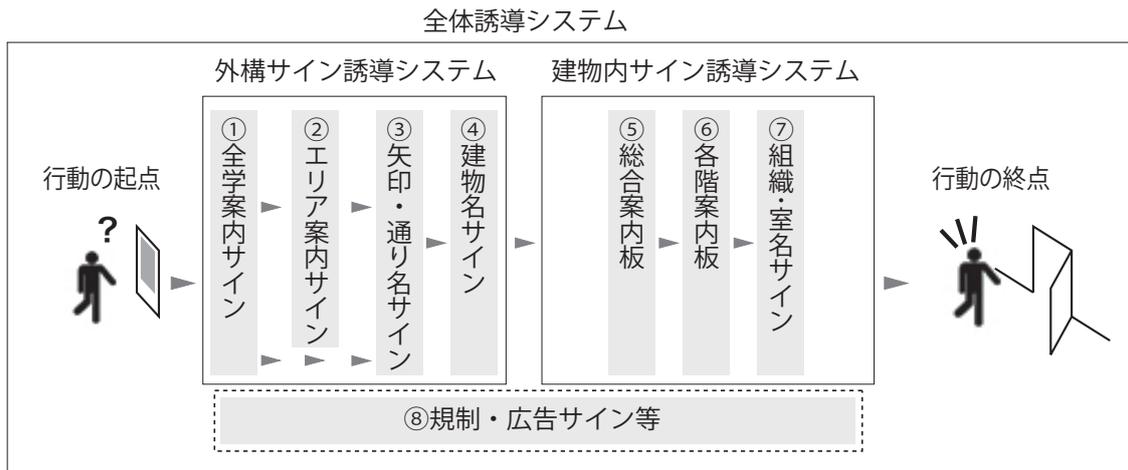


図 1-5 サインマニュアルが対象とするサインと階層的サインシステム

1-3 サイン計画の対象とシステム

〈サイン計画の対象〉

サイン計画の対象は、名古屋大学のキャンパスに必要とされる外構、建物内におけるサインとする。なお、鶴舞・大幸・他キャンパスにおいては、病院などの特殊性もあるが、基本的な考え方は本マニュアルを踏襲することとする。

各種サインのデザイン・設置場所等は、本マニュアルに沿って計画する。また、建物建設の進捗状況や交通計画の変更等を勘案し、その位置・数量を状況に応じて決定する。また、本マニュアルに沿って計画された既存の建物におけるサインは継承し、今後建設される新設建物のサインは、これに準ずるものとする。

〈サインシステム〉

サインによって人々を円滑に誘導するためには、案内サインが人々の動きに即して階層的な誘導システムとして設置されていることが必要である。以下にその構造を示す。(図 1-4, 図 1-5)

(1) 全体誘導システム

訪れた人の行動の起点から終点までをスムーズに誘導するサインシステムとする。

(2) 外構サイン誘導システム

キャンパスの入口から目的とする建物まで、案内範囲や方向を順にしぼる階層的サインシステムとする。具体的には、「①全学案内サイン→②部局エリア案内サイン/③矢印・通り名サイン→④建物名サイン」というようにシステム化する。また、遠くからでも視認性の高い色彩を基調とする。

(3) 建物内サイン誘導システム

主要な出入口から、「⑤総合案内板→⑥各階案内板→⑦組織・室名サイン」の順に行き先を誘導する階層的サインシステムとする。

(4) 規制・広告サインシステム

キャンパス内には上記にあげた誘導サインの他、「⑧規制・広告サイン等（車両や自転車の入場・駐停車位置を制限するサイン、店舗のPRサイン、イベントなどの告知サイン）」がある。こうしたサインは設置期間、設置目的、設置主体が多岐に渡るが、誘導サインと同様キャンパス全体の中でシステム化することが必要である。

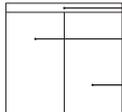
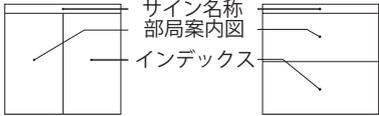
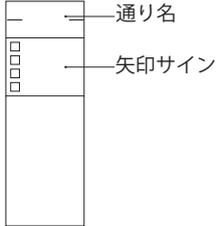
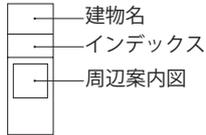
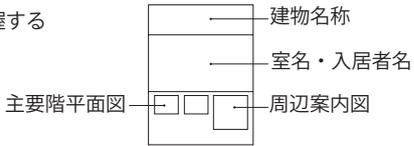
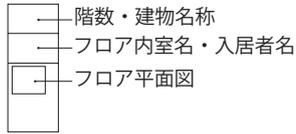
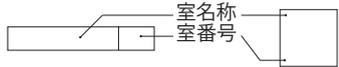
サインの種類別		表示内容	
外構サイン(4章)	①全学案内サイン	目的：キャンパス内のエリアを把握する ・ エリア番号、アルファベット ・ 総合案内所、地下鉄出入口、バス停	 サイン名称 全学案内図 組織案内住所表記 インデックス
	②エリア案内サイン	目的：周辺のエリア情報を把握する ・ 一定部局内の案内図 ・ 部局内の主な建物、専攻名	 サイン名称 部局案内図 インデックス
	③通り名・矢印サイン	目的：建物の方向、通り名を把握する ・ 通り名 ・ 建物、部局の方向	 通り名 矢印サイン
	④建物名サイン	目的：建物名称を把握する ・ 建物に入っている部局、専攻名 ・ 周囲 200m 四方の地図	 建物名 インデックス 周辺案内図
建物内サイン(5章)	⑤総合案内板	目的：建物内の全所室構成・フロア情報を把握する ・ 部局、専攻名、室名 ・ 建物周囲 200m の地図 ・ 主要階平面図	 建物名称 室名・入居者名 主要階平面図 周辺案内図
	⑥各階案内板	目的：フロア内の室名・入居者名を把握する ・ フロア内平面図 ・ 室名と入居者名	 階数・建物名称 フロア内室名・入居者名 フロア平面図
	⑦組織・室名サイン等	目的：部屋名を把握する ・ 室名、室番号、入居者名	 室名称 室番号
規制・広告サイン等(6章)	⑧規制サイン・イベント情報掲示板・広告サイン等	目的：安全・規制・イベント情報を告知する ・ 交通標識、各種の規則、イベント情報案内	

図 1-6 階層的サインシステムを構成するサインの種類と簡略図

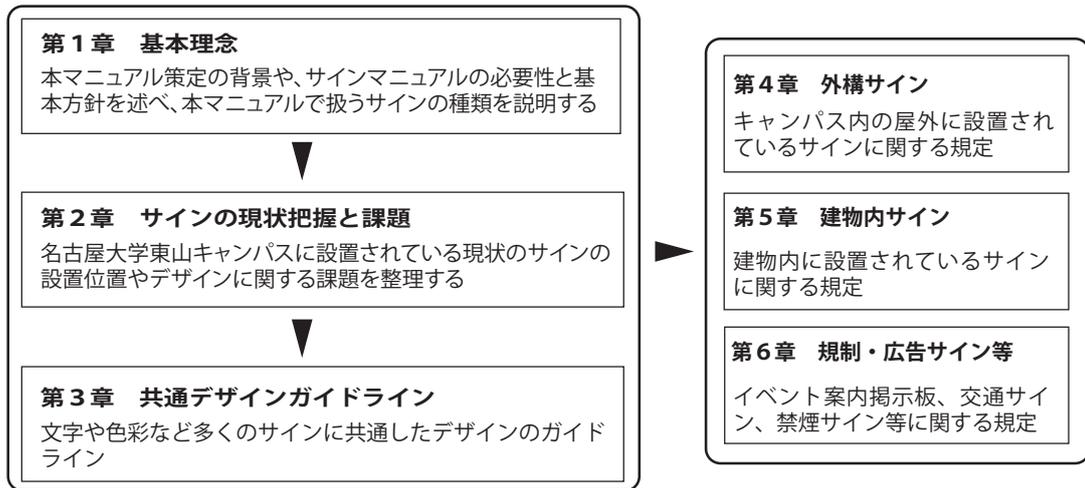


図 1-7 本マニュアルの構成

1-4 本マニュアルの構成 (図 1-7)

本マニュアルでは、第1章で基本理念を述べ、第2章でサインの現状把握と課題を明らかにした上で、第3章で共通デザインガイドラインの策定を行う。さらに、続く3つの章でそれぞれ、第4章外構サイン、第5章建物内サイン、第6章その他案内サインについて規定する。

	外構サイン				建物内サイン			⑧ 規制・広告サイン等
	① 全学案内サイン	② エリア案内サイン	③ 矢印・通り名サイン	④ 建物名サイン	⑤ 総合案内板	⑥ 各階案内板	⑦ 組織・室名サイン	
整備	本部							
維持						部局		適宜
更新								

図 1-8 各サイン別整備主体

1-5 本マニュアルの運用 (図 1-8)

- ・ **マニュアルの準用** | 新築・大規模改修建物ではすべて本マニュアルに準用したサインを設置する。サイン工事は原則として建物建築工事に含むこととし、設計時には本マニュアルによるサイン計画に配慮した設計を行う。なお、全学的予算、部局予算いずれの整備においても、本マニュアルに則ることとする。
- ・ **設計段階の検討** | 新築、および改修工事の付帯設備としてサインを整備する場合には、設置場所やサイズ等、その建物の壁面仕上や大きさに合わせて、納まりよく設置できるよう、建物の設計段階で検討することとする。
- ・ **既存サインの更新** | 既存のサインについては順次、本マニュアルに沿って更新することとし、毎年の点検により情報の古いもの、重複するもの、仮設的なものなどから優先的に更新をはかることとする。
- ・ **既存サインの撤去** | 現在キャンパス内にあり、全く使用されていない老朽化した掲示板や、誤った情報を載せた標識などは、早急に撤去する。
- ・ **整備主体** | 外構サインについては原則として整備主体を以下のように規定する。

[本部] : 公共性の高い外構サインのうち、「①全学案内サイン」の**整備・維持・更新**、および「②エリア案内サイン」「③通り名・矢印サイン」の**整備**。

[部局] : 「②エリア案内サイン」「③通り名・矢印サイン」の**維持・更新**。「④建物名サイン」及び「⑤⑥⑦の建物内サイン」の**整備・維持・更新**。

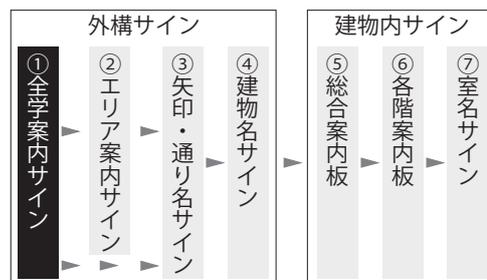
サインの現状把握と課題

Present Understand and Problem of Sign

- 2. 1 | 全学案内サイン
- 2. 2 | 部局エリア案内サイン
- 2. 3 | 矢印サイン
- 2. 4 | 建物名サイン
- 2. 5 | 建物内サイン
- 2. 6 | 交通標識・規制・広告サイン等



人々を目的地まで円滑に誘導するために存在するサインだが、名古屋大学東山キャンパスにおいて、外構サイン・建物内サインともに、現状ではいくつかの問題が存在する。それらを解決し、わかりやすいキャンパスづくりを行うために、第2章では、まず、東山キャンパスに設置されている全学案内サイン・エリア案内サイン・矢印サイン・建物名サイン・建物内サインのそれぞれの設置位置や包括範囲、デザインの実態を把握する。これらを受けて明らかとなった課題を整理し、次章以降で行うサインシステムの策定に導くものとする。



2-1 全学案内サイン

(1) 設置位置

全学案内サインは、東山キャンパス全体を包括するサインであり、図 2-1 のように、地下鉄出入口やバス停付近と車両の出入口に 6 カ所設置されている。

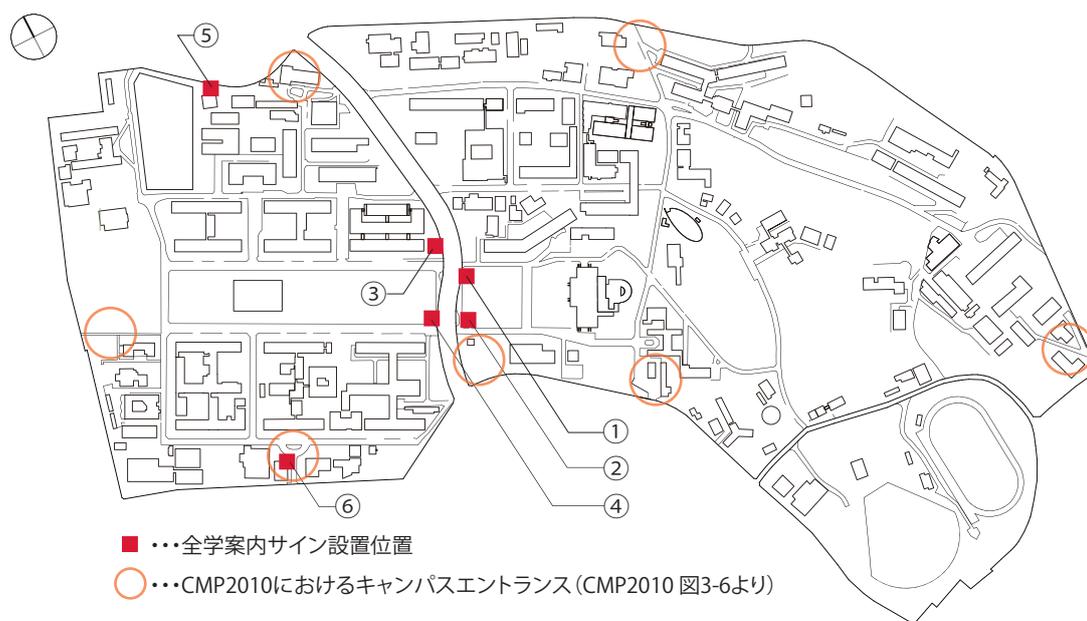


図 2-1 現状全学案内サイン設置位置

(2) デザイン

全学案内サインの現状設置事例を図 2-2 に示す。全学案内サインは、キャンパス全体を包括するサインであるが、現在地からみて正面方向を上向きに地図を配置するため、設置位置によって地図の向きが変わることになる。記載内容は同じであるが、上部に記載した大学名・案内板名の表示（フォント・サイズ）や、案内板のフレームの素材・色や大きさ・表示高さの違いがみられる。



図 2-2 全学案内サイン例

(3) 課題

東山キャンパスには正門がなく、キャンパス外周に多数の出入口が存在するが、全学案内サインは地下鉄出入口付近と車両出入口の計6カ所にしか設置されていない。CMP2010 第3章で述べられている「キャンパスエントランス」として構想されている計7カ所のうち、現在設置されているのは1カ所にとどまることから、「顔となるパブリックスペース」の整備とともに全学案内サインの設置が望まれる。

また、全学案内サインは、改善により現在のかたちになった経緯があるものの「すべての部局が表記され、建物に配色される色の数が多いために識別しづらい」、また「グリッド分別による所在エリアがわかりづらい」という声が聞かれる。来訪者が最初に目にする事となるサインであることから、キャンパスの起点としてわかりやすい表記方法が求められる。また、統一感の観点からも、案内図を囲っているフレームの形状や素材、及び上部大学名表示のデザインの統一が求められる。

2-2 エリア案内サイン

(1) 設置位置と包括範囲

エリア案内サインは、公道からの入口付近を中心に11カ所設置されている(図2-3)。

各部署が独自に設置したエリア案内サインは、設置位置・設置部署によってそれぞれ包括範囲が異なっており、その数は7種類に上る(図2-4)。

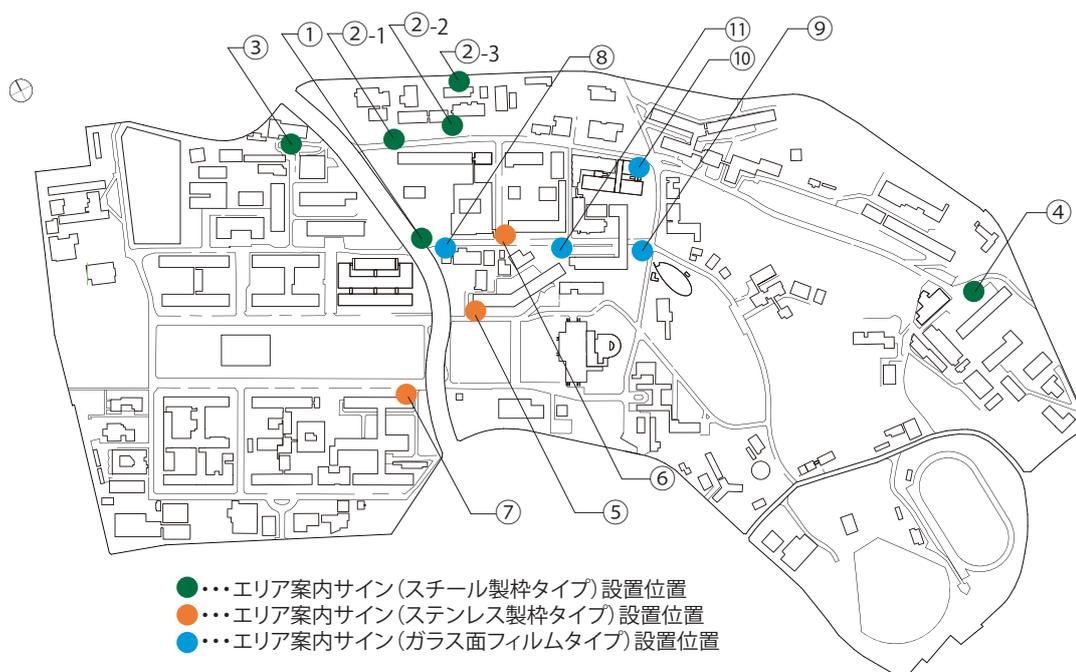
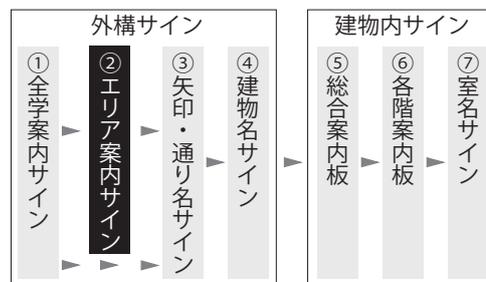


図2-3 現状エリア案内サイン設置位置

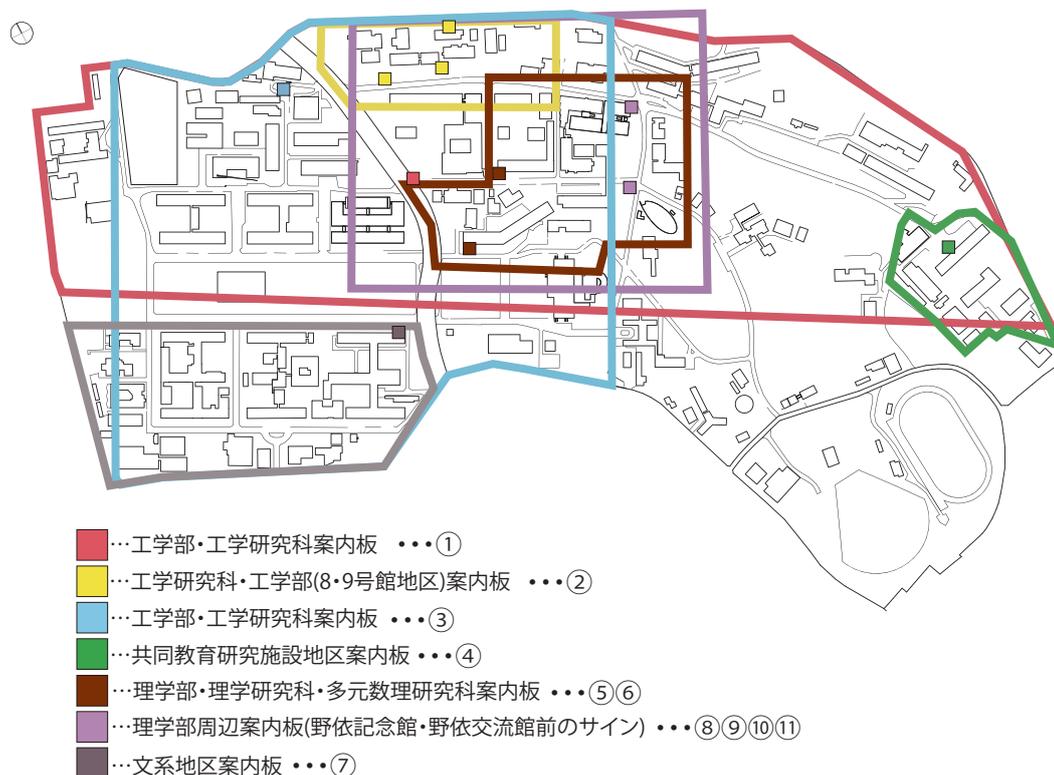


図2-4 エリア案内サイン包括範囲



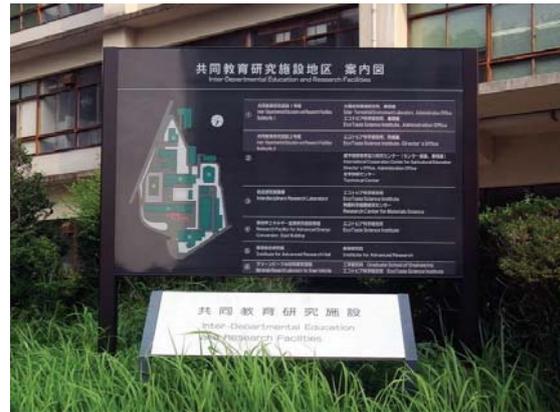
＜①＞：スチール枠タイプ



＜②-1＞：スチール枠タイプ



＜③＞：スチール枠タイプ



＜④＞：スチール枠タイプ



＜⑤,⑥＞：ステンレス枠タイプ



＜⑦＞：ステンレス枠タイプ



＜⑧,⑪＞：ガラス面フィルムタイプ



＜⑨,⑩＞：ガラス面フィルムタイプ

図 2-5 エリア案内サイン例

2

(2) デザイン

エリア案内サインのデザインは、スチール製枠タイプ、ステンレス製枠タイプ、ガラス面フィルムタイプの3種類に分類できる(図2-5)。各エリア案内サインは、建物にそれぞれの部局の色をつけるなどデザインの考え方は類似しているものの、ベースの色、グリッドの表記、包括範囲、レイアウト、フレームの大きさ・素材など多くの点で異なり、統一感に欠ける。

(3) 課題

• **包括範囲の偏向** | エリア案内サインは、理学部・工学部が独自に設置しているものが多い。そのため、キャンパス東側の理学部エリアを中心に包括するサインが多く、包括範囲に偏りがみられる。

• **表記方法の差異** | 記載内容に関して、地図に隣接して専攻名と建物名のインデックスをあげているもの(図2-5 ①⑥)や、地図内の建物上に名称を記載しているもの(図2-5 ⑤⑦)など、表記方法が異なっている。また、記載されている建物の色彩や、地図及びその周囲のベース色、フレームのデザインが異なっており、エリア案内サインとして統一がなされていない。

エリア案内サインの多くが部局の負担で設置しており、工学研究科・理学研究科のように多数の専攻・学科を有する組織ではそれぞれの専攻やセンター、教室、講義室等の所在地を案内したい(する必要はある)という個別の事情もある。したがって、ある程度の表記の違いは許容せざるを得ないが、その包括範囲やデザインの考え方は統一し、キャンパス全体に万遍なく設置しエリアを案内することで、全学案内サインに続く道標とすることが求められる。

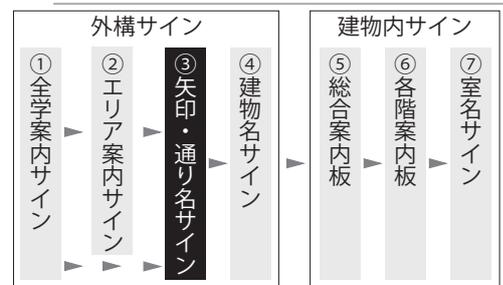
2-3 矢印サイン

(1) 設置位置と表示建物

矢印による誘導サインの設置位置を図 2-6 に示す。全 19 基のうち、交差点に設置されているものが 16 基、それ以外が 3 基である。

矢印サインは全学案内サインやエリア案内サインのように地図で示すのではなく、部局や建物の名称を表示し、矢印でその方向を示すサインである。

次に、矢印サインに示されている建物を見る（図 2-7）。図中の数字は該当建物を示している矢印サインの設置数を表している。数多くの矢印サインで表示されている建物がある一方、矢印サインで表示されていない建物（図中白抜きの建物）も多く存在する。また、「理学部」「共同教育研究施設」のように、複数の建物やエリアを示す矢印もあり、矢印をつける部局、エリア、建物のルールが統一されていない。



(2) デザイン

矢印サインの例を図 2-8 に示す。デザインは 2 種類に大別できる。矢印サインには建物や部局の名称とその方向を示す矢印が表示されており、サインごとに表示建物数が異なる。またサイン内で表示されている建物によっては、建物名の左右に別方向の矢印が表示されているものもある。フォントの丸ゴシック体の使用や色彩の使い方など、その他の外構サインとは大きく異なる考え方のデザインである。なお、矢印サイン⑪～⑬は 2005 年「愛・地球博」で使用されたサインを譲り受けたものである。

(3) 課題

・ **設置位置の偏在** | 矢印サインの設置位置は、エリア案内サインが理学部・工学部を中心とした包括範囲に偏っていたのとは逆に、キャンパス西側に偏っている。地下鉄出入口方面からの来訪者を想定した設置位置となっているため、外周部からの入構者に対しては、誘導が有効に働かない可能性がある。

・ **未統一の表記法** | 矢印サイン⑪～⑬は、同じ建物で 2 つの矢印が表記されていたり、同じプレートに 2 つの建物を表記するものもあり、歩行者や車両運転者にとって混乱を招く一因となっている。

・ **万博設置サイン** | 矢印サイン⑪～⑬は元来、万博期間の短期利用を想定してつくられたものであり、劣化までの期間が短く修繕の頻度が高い。また、他のサインより高い位置に設置されているため、向きによっては見えずらいという指摘もある。

・ **矢印サインの限界** | 東山キャンパス内には、40 を超える部局等組織、250 以上の建物があり、これらをすべて矢印で誘導することは不可能である。また、起点も複数存在することから、矢印による誘導には限界がある。組織や施設の階層性を明確にし、公共的な施設のみ矢印で誘導するなど、統一したルールを設けることが必要である。エリア表記方法としても、たとえば、通りに名称を付け、それによってエリアへの誘導を図る通り名サインの導入も考えられる。

また、矢印サインは車両と歩行者双方から視認できるようにデザインがなされているが、車両通行エリアは限定されており、歩車分離を意識した計画が求められる。

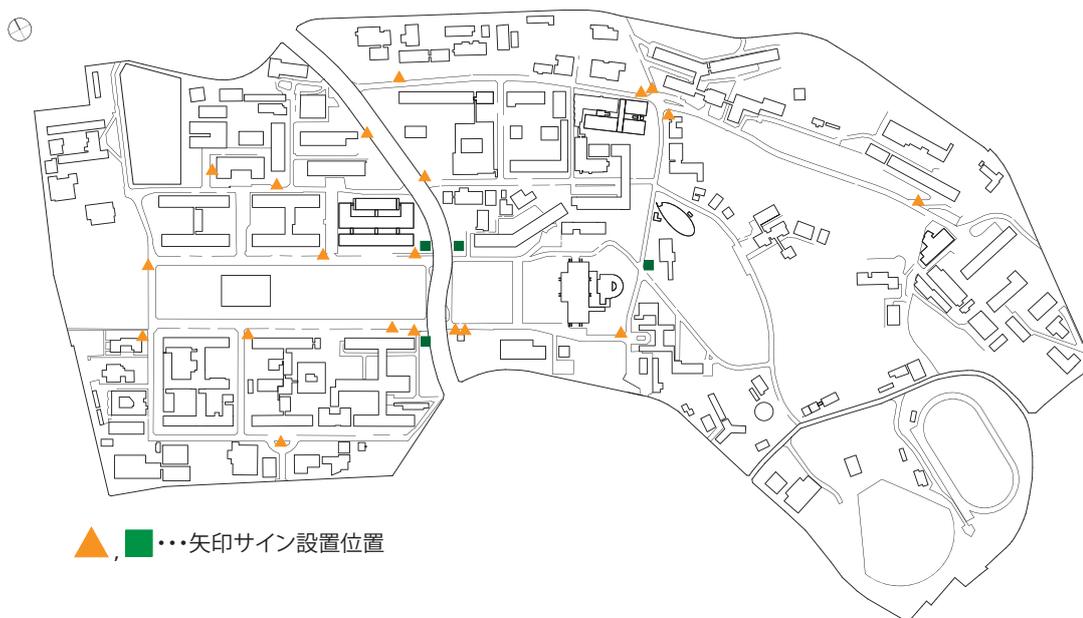


図 2-6 矢印サイン設置位置

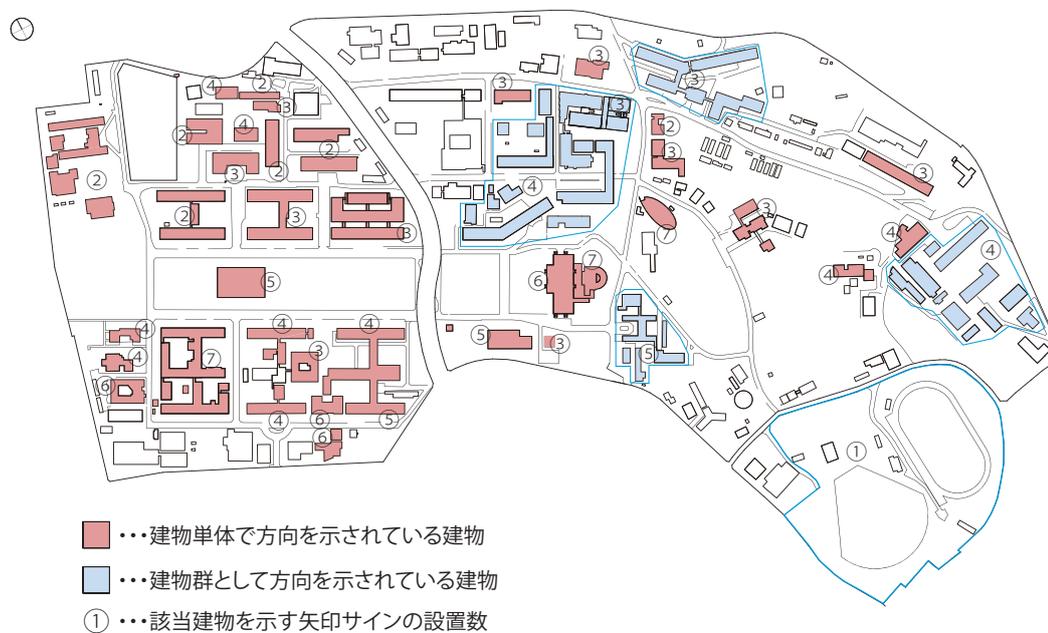


図 2-7 矢印サイン表示建物



< 1



< 2



< 3



< 4



< 5



< 6



< 7



< 8



< 9



< 10



< 11



< 12

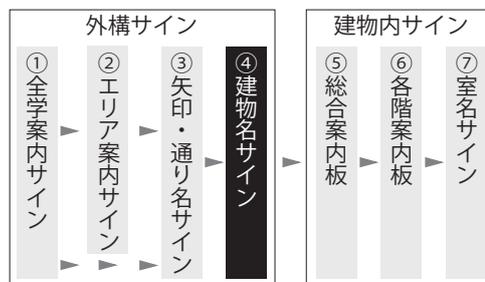
図 2-8 矢印サイン例

2

2-4 建物名サイン

(1) 設置位置

建物名サインは、建物の入口付近に設置されている。倉庫や温室などには建物名サインがないこともあるが、入居者がいるほとんどの建物には建物名サインが存在する。また、主要な出入口付近に1カ所に設置されている建物もあれば、複数の出入口にそれぞれ設置されている建物もある。



(2) デザイン

各建物にどのようなタイプの建物名サインが設置されているかを図2-9に示す。図中の①～③に当てはまらないデザインとして、自立型の建物名サインが設置されていない建物で、建物の外壁や扉に建物名が記されているもの(④～⑥)もある。

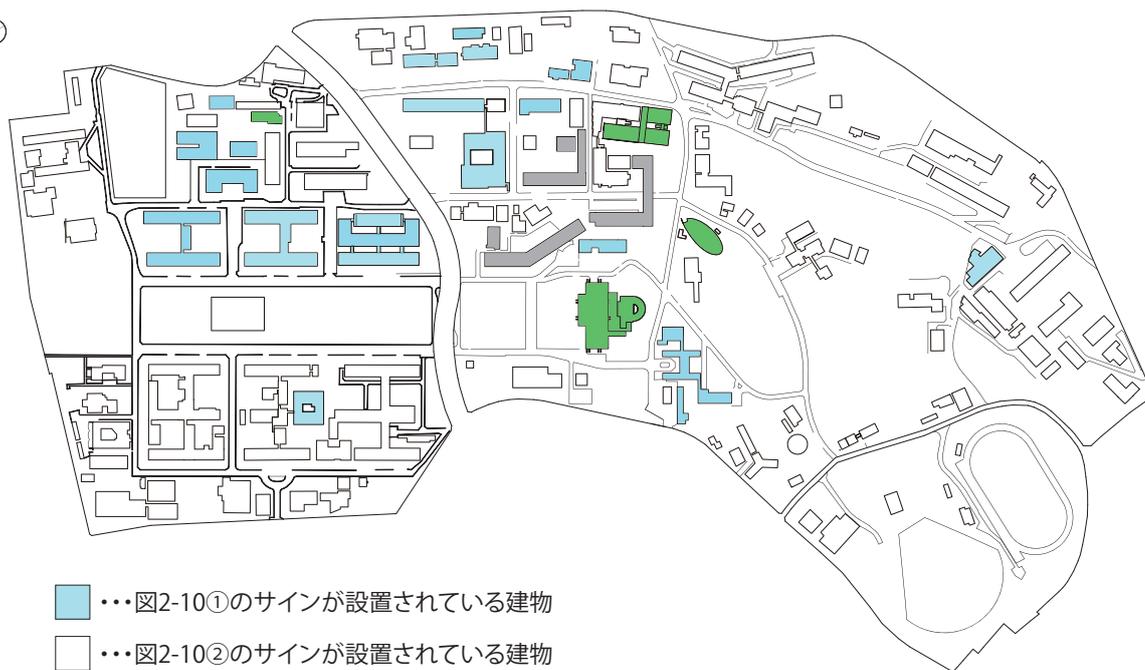
建物名サインの例を図2-10に示す。建物名サインに記載される内容によって、建物名、部局名、専攻名まで表記するもの(①)、部局名のみ表記するもの(②, ⑤)、建物名と部局名を表記するもの(③, ⑥)、建物名のみ表記するもの(④, ⑥', ⑥'')があり、形態、大きさ、素材といったデザインも大きく異なる。

(3) 課題

建物名サインは、入居する組織や建物名自体を表記するものであり、一連の外構サインによる誘導システムの到達点として、キャンパス全体の中で自らの位置を把握する役割をもつ。課題を以下に挙げる。

・**デザインの不統一** | 記載内容について学部・研究科名のみが表記されているタイプと、入居している専攻名まで表記されたタイプが存在するといったように、デザインの統一ができていない。また、建物によっては館名板として設置されているものもある。

・**植栽による隠蔽** | 設置されている場所によって、植栽などによって見えにくくなっているものがある。



- …図2-10①のサインが設置されている建物
- …図2-10②のサインが設置されている建物
- …図2-10③のサインが設置されている建物
- …①～③に当てはまらない建物

図 2-9 建物名サイン表示建物

・外構サインとの不連続性 | 外構サインと連動していることが望ましいが、現状ではこうした観点から設置されているとは言い難い。



< ① (自立型)



< ①' (自立型)



< ② (持上型)



< ③ (コラム型)



< ④ (開口面型)



< ⑤ (面付型)



< ⑥ (切文字型)



< ⑥' (切文字型)



< ⑥'' (切文字型)

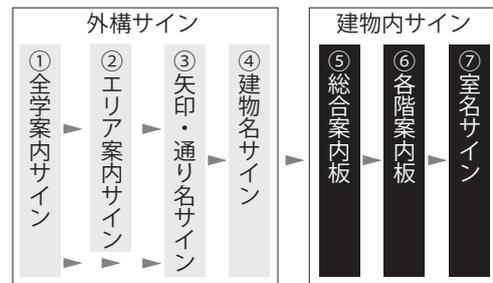
図 2-10 建物名サイン例

2

2-5 建物内サイン

(1) 総合案内板 (図 2-11)

総合案内板は、建物内のすべての居室を示す案内板である。設置位置は、メインエントランスから入って視認されやすいところに設置されている。デザインとしては、この15年以内に新築・改修された多くの建物では、先のサインマニュアルにしたがって、組織名・室名・人名表記の方法や色彩計画について統一されたものとなっている。諸室の表示については、専攻ごとに並んでいるもの、階ごとに並んでいるもの、室名が五十音順で並んでいるものがある。各階平面図と周辺地図については、表示されているものとないものがある。



< ①



< ②



< ③



< ④

図 2-11 総合案内板例

(2) 各階案内板 (図 2-12)

各階案内板は、各階のエレベーターホールや階段周辺に設置されている。多くが先のサインマニュアルにしたがっており、設置階のすべての室名、入居者名、平面図が記載されている。レイアウトや図面の表示内容は建物によって違いがみられる。一部の学部には、自立型の総合案内板をエントランス外部に設置している例も見られた。(⑤)



図 2-12 各階案内板例

(3) 室名サイン (図 2-13)

室名サインは、すべての室の入口付近に設置されている。先のマニュアルに従いほとんどの建物で着脱式のプレートを使用しているが、その素材はスチール、プラスチックがあり、また講座名、室名、室番号の表記方法及び、役職名の有無や位置に違いがみられる。表記方法については、日英表記になっていない建物がある。講義室など室名変更の可能性が低い室では、カッティングシートで壁に直接貼られている建物もある。



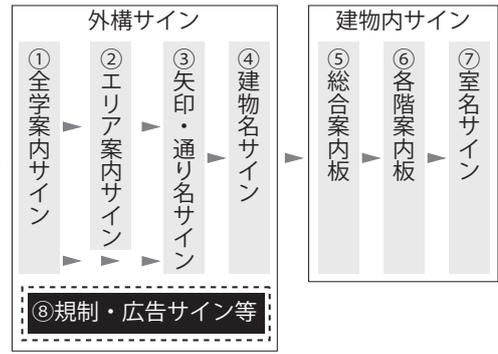
図 2-13 室名サイン例

2-6 規制・広告サイン等

(1) 交通標識

車止めや歩行者専用道の表記といった交通標識は、貼り紙やサインではなく、舗装や植栽などの環境要素によってなすことが望ましいが、現状で以下のような課題がみられる。

- ・一方通行、進入禁止、駐車禁止等の交通標識のデザインが統一されていない。
- ・車両入口から駐車場までの誘導、および、車両出口への誘導が適切になされていない箇所が多い。
- ・自転車、バイクの誘導に関するサインがほとんどない。
- ・駐車禁止の規制サインでは効果がないため、コーンが立てられている場合もある。



<①



<②



<③



<④



<⑤

図 2-14 交通標識例

(2) 規制サイン

- ・禁煙、喫煙場所等の規制サインのデザインが統一されていない。
- ・盗難注意、駐輪禁止等のサインは貼り紙によるものが多く、美観を損ねている。
- ・キャンパスへの出入口に「許可なき者の入構を禁ずる」というサインが数多く設置されている。



<①



<②



<③

図 2-15 規制サイン例

(3) 広告・イベントサイン

- ・ 掲示板のデザインが統一されていない。または、古くなった案内や告知などの貼り紙が放置され美観を損ねている。(①、②、③)。
- ・ イベント情報やサークル勧誘、大学祭などの立て看板や貼り紙のデザインが乱雑な上、乱立している(④、⑥、⑦)。
- ・ ベニヤによる仮設のサインが恒常的に使われている(⑤、⑧)。
- ・ 店舗サインの形式(自立型、フラッグ型、壁面型)に統一されたルールがない(⑨～⑬)。



<①



<②



<③



<④



<⑤



<⑥



<⑦



<⑧



<⑨



<⑩



<⑪



<⑫



<⑬



<⑭

図 2-16 広告サイン例

(4) モニュメント等

- ・ノーベル賞受賞など顕著な業績に対する記念や、その場所の歴史を後世に伝える意義を持つモニュメントや石碑のデザインについて、それぞれ独自のものが設置されている。
- ・モニュメントや石碑、記念植樹の設置位置について明確なルールがない。



< ①



< ②



< ③



< ④



< ⑤

図 2-17 モニュメント等サイン例

2-7 校名サイン

校名サインは現在、山手グリーンロード沿いのキャンパス南北両端、および豊田講堂前からつづくグリーンベルトと山手グリーンロードの交差する位置に設置されている。正門がない名古屋大学の特徴もあって、明確に意識しないままキャンパスエリアに入り、また同様に明確に意識しないまま通り抜けてしまうといった声も聞かれる。石造の校名サインが、山手グリーンロードと平行に設置されていることもその一因と考えられるが、以下に特に山手グリーンロードと東山キャンパスの南北端に位置する校名サインの仕様と課題について整理する。

(1) 仕様

基礎：コンクリート

柱：H鋼—60×125×3 本+溝型鋼 -50×100 抱き合わせ。

サイン面：樹脂製パネル厚 18。FB-50×5 押え。全面磨り硝子調フィルム貼り+切り文字貼り。
文字フォント：丸ゴシック。

文字色：白

(2) 課題

- 新しく規定された「名大マーク」はフォントが明朝体であるが、現在設置されている校名サインの丸ゴシックとは大きく異なる。
- 「名大マーク」ではNU マークと文字を組み合わせそれぞれの大きさも規定しているが、現在設置されているサインではNU マークが小さく、和文字だけが強調されている。
- 一方、英文字の位置についても「名大マーク」で規定されたが、現状ではガラス面が上下に分割されていることから、分離された位置にあり、かつ後ろ揃えの位置にあり、規定と異なる。
- シート切り文字貼りによる表記部分は、経年変化により端部より剥がれが目立っているため、学外に向けた名古屋大学の顔の役割を持つ校名サインのあり方として、印象を損ねている。
- 樹脂パネル面が熱による劣化のため、ゆがみを生じている。

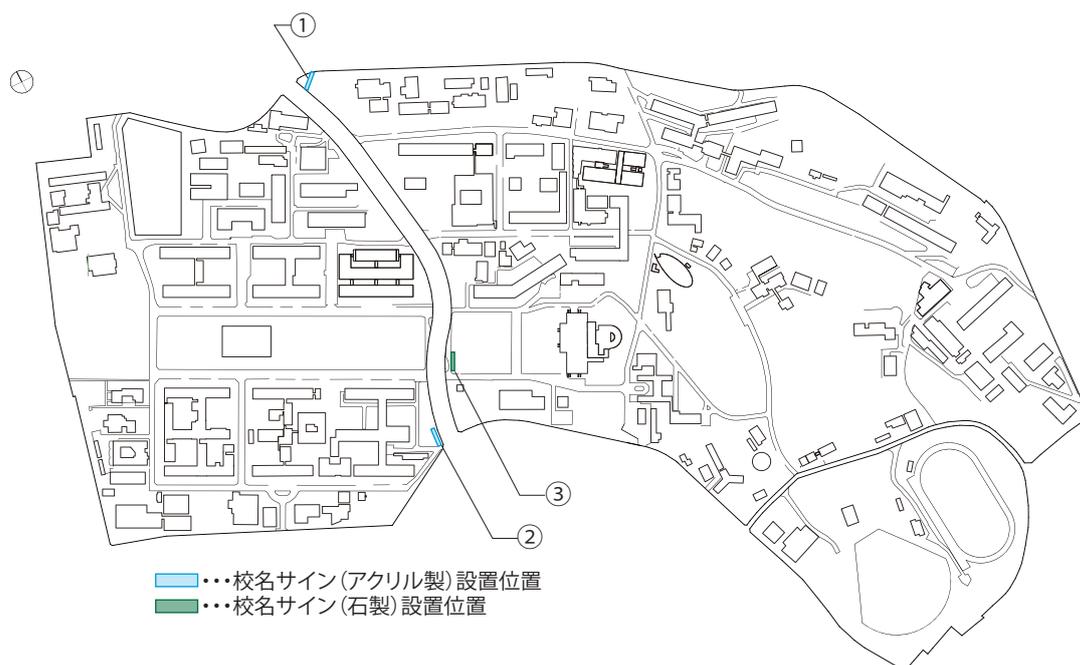
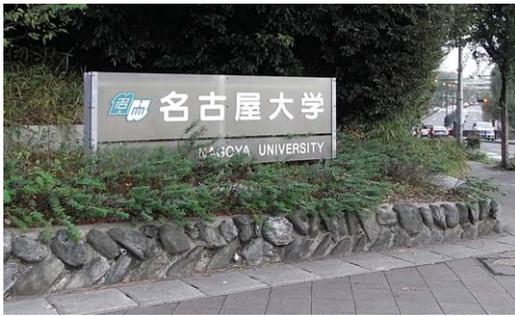


図 2-18 校名サイン設置位置



< ① -1



< ② -1



< ② -3



< ② -4



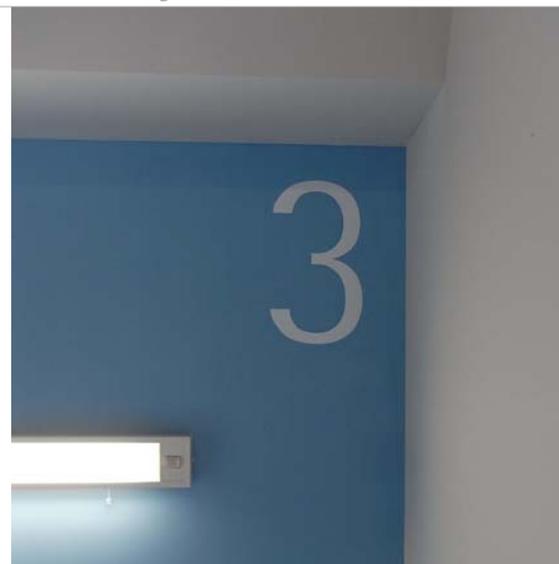
< ③

図 2-19 校名サイン設置状況

共通デザインガイドライン

Common Design Guideline

- 3. 1 | 設置位置・設置形態
- 3. 2 | 表記内容
- 3. 3 | ロゴデザイン
- 3. 4 | 使用言語・書体
- 3. 5 | 色彩
- 3. 6 | 素材・仕上
- 3. 7 | ピクトグラム



サイン計画を行う上では、高齢者や車いす利用者等を含む、あらゆる人にわかりやすいようにすることが重要である。そのためには、外構サインや建物内サインなど、キャンパス内に存在するあらゆるサインを統一するための、文字や色彩や素材等のデザインのガイドラインが必要である。本章では、キャンパス全体のサインを統一するための共通デザインガイドラインを定め、その内容について説明する。

3-1 設置位置・設置形態

外構サインは歩行者からの視認性が高く、歩行の障害にならない場所に自立する形で設置する。建物内サインは出入り口やエレベーター、主要階段の扉から視認性の高い壁面に設置する。外構サインの高さは2100mmで統一する。表記内容の多い全学案内サインとエリア案内サインは記載内容に応じて幅を大きくするが、その他のサインは幅750mmで統一する。建物内サインは設置する壁面の大きさや表記情報量に応じて幅を変更するが、高さは天井高さに合わせて設置することとする。

各サインのレイアウトやデザインの詳細については、第4章、第5章で記述する。

3-2 表記内容

来訪者を円滑に誘導するために、表記内容に明確な階層性をもたせ、適切な位置に適切な情報を表すサインを設置する。具体的な表記内容は、起点となるキャンパスの入り口では部局や配置の全容を示し、順次誘導されるサインにおいて、該当部分の情報量を増やし、目的地に到達するよう体系化する。各サインの表記内容の詳細については、第4章、第5章で記述する。(表3-1)

なお、住所番号として、キャンパス内を東西方向それぞれいくつかに分割し、建物の棟の位置を表すこととする。例えば「D4①」と付した建物はエリア番号がD行4列目であることを示し、建物番号が①であることを示す(全学案内サイン参照)。

表3-1 各サインの表記内容

			ランドマーク	公開施設名	一般建物名	エリア番号	通り名	部局名	専攻等名	講座名	公共的室名	一般室名	入居者氏名	室番号	ピクトグラム	ロゴ	
外構サイン	全学案内サイン	マップ	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	
		インデックス	○	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
	エリア案内サイン	マップ	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○
		インデックス	△	△	×	○	×	○	△	×	△	×	×	×	×	×	
	通り名サイン	マップ	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○
		インデックス	△	△	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
建物名サイン	マップ	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	
	インデックス	△	△	○	○	×	○	△	×	×	×	×	×	×	×		
建物内サイン	総合案内板	マップ	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	
		フロア案内図	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○		
		インデックス	×	×	×	×	×	○	○	△	○	△	○	○	×		
	各階案内板	フロア案内図	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○
		インデックス	×	×	×	×	×	○	○	△	○	○	○	○	×		
	室名サイン		×	×	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	×

○:表記する ×:表記しない △:状況に応じて表記する

3-3 ロゴデザイン

2012年に改正された名古屋大学学章規定において、従来のシンボルマーク（NAGOYA UNIVERSITYの頭文字「NU」に篆書体の「名大」を合成した通称「NUマーク」）から、新たなシンボルマークが示された。これまではシンボルマークと大学名表記（ロゴタイプ）の方法に厳密なルールがなく様々な表記が混在していたが、運用のルールとして新たに「名古屋大学UIシステムマニュアル」が定められた。そこで、このシンボルマークとロゴタイプの組み合わせによる「名大マーク」を浸透させ、名古屋大学のアイデンティティを表出することを目的に、学内に数多く設定されるサインにも、名大マークを積極的に表記し、「名古屋大学UIシステムマニュアル」を準用することとする。

名大マークでは、シンボルマークの右側の上部に「名古屋大学」、下部に「NAGOYA UNIVERSITY」を記載した①をサインに記載する基本デザインとする（図3-1）。名大マークは原則として各サインの右上部に記載することとするが、サインの大きさや位置に応じて、適宜①以外のデザインを用い、右上部以外の場所に記載することも容認する。反転例も図示する（③、④）。



図 3-1 名大マークの組み合わせ

3-4 使用言語・書体

現在、キャンパス内の多種多様なサインに用いられている文字には様々な文字フォントや大きさのものが混在している。そのため、本節では原則としてキャンパス内のすべてのサインで使用する文字の基準を原則として以下のように定める。(表 3-2)

- ・日本語、英語併記とする。
- ・書体は日本語は「新ゴ」、英語は「Rotis Semi Sans」とする。
- ・日本語は全角、英語と数字は半角で表記し、原則として文字幅の拡大縮小を行わない。
- ・文字の大きさ・太さは視認性を確保しつつ、サイン全体のバランスを考慮した大きさとし、各案内板ごとに定める。(4・5章で詳細説明)

但し、期間が限定されている掲示など、各部局や本部が設置する暫定的なサインについては「MSゴシック」など汎用フォントの使用も認める。

表 3-2 文字規定

規定フォント		使用例
和文	漢字	新ゴ L 新ゴ R 名古屋大学東山環境工学 名古屋大学東山環境工学
	ひらがな	新ゴ L 新ゴ R なごやだいがくひがしやま なごやだいがくひがしやま
	カタカナ	新ゴ L 新ゴ R ナゴヤダイガクヒガシヤマ ナゴヤダイガクヒガシヤマ
欧文	小文字	Rotis Semi Sans Std 45 Light Rotis Semi Sans Std 55 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	大文字	Rotis Semi Sans Std 45 Light Rotis Semi Sans Std 55 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
	数字	Rotis Semi Sans Std 45 Light Rotis Semi Sans Std 55 1234567890 1234567890

3-5 色彩

サインの目的である誘導をより効果的かつ、美的に表現するために、遠くからでも視認性のよい色彩を基調とする。「濃は不屈・永遠を表し、緑は若さを表す」とされ、従来より親しまれてきた名古屋大学のスクールカラー「濃緑」であるが、UIカラーとして制定された「濃緑」を基本としつつ、各部局で使用する色彩を定め、案内図や室名サイン等で共通して使用する。図や文字の背景（基本7色、補助色、ベース色、文字色）を、表3-3に示す色彩計画を基準として定める。

表 3-3 色彩計画

	色彩	対象組織等	備考	
基本7色	[A] UIカラー	 全学共通施設・附置研究所・センター等 DIC-N848 C100 M0 Y71 K43 (PANTONE 342C)		
	[B] 高彩度色	 公開施設・本部事務局 DIC 116 C0 M95 Y92 K0	 厚生施設・生協・食堂等 DIC 123 C0 M35 Y100 K0	学外利用者が多い施設のため識別性を重視する
	[C] 部局カラー 1	 理学研究科・理学部 DIC 425 C86 M62 Y32 K0  工学研究科・工学部 DIC 69 C62 M14 Y0 K0	 生命農学研究科・農学部 DIC 360 C30 M3 Y92 K0	工学部系：寒色、 農学部系：黄緑色
	[D] 部局カラー 2	 文系・文理連携等 DIC 258 C3 M36 Y15 K10		
補助色	[E] 各文系部局・ 独立研究科カラー	 文学部 DIC 2009 C3 M36 Y15 K0	 教育学研究科 教育学部 DIC 32 C0 M15 Y53 K0	理系は寒色、文系は暖色を用いる。
		 法学研究科 法学部 DIC 204 C0 M56 Y100 K0	 経済学研究科 経済学部 DIC 307 C52 M88 Y96 K0	
		 情報文化学部 DIC 294 C0 M80 Y58 K0	 国際開発研究科 DIC 314 C25 M56 Y98 K0	
		 国際言語文化研究科 DIC 286 C34 M100 Y59 K0	 多元数理研究科 DIC 440 C72 M59 Y0 K0	
		 情報科学研究科 DIC 452 C35 M41 Y0 K0	 環境学研究科 DIC 134 C87 M0 Y52 K0	
		 創薬科学研究科 DIC 256 C100 M96 Y12 K0		
[F] サインベース色	 サイン下地 (上部) DIC 516 C86 M83 Y82 K10	 道路 DIC 583 C0 M0 Y0 K0	低明度色を基本とし、必要に応じて高明度色とする。	
	 外構サイン下地 DIC 650 C25 M21 Y22 K0	 建物内サイン下地 (下部) DIC 614 C31 M16 Y16 K0		
	 廊下 (フロア図) DIC 142 C70 M50 Y0 K0	 展示室等 (フロア図) DIC 86 C0 M20 Y100 K0		
	 外構 (フロア図) DIC 651 C0 M0 Y0 K40	 規制サインの下地色 DIC 653 C59 M50 Y45 K0		
	 外構 (全学案内図) DIC 618 C0 M0 Y0 K57			
[G] 文字色	 文字 DIC 582 C0 M0 Y0 K100	 文字 DIC 583 C0 M0 Y0 K0	下地が淡い色彩の場合黒、濃い色彩の場合は白	

※一つの建物に複数の部局が存在する場合は、建物を管理する部局の色、もしくは最大2部局の色までを使用する。

3-6 素材・仕上

サインの文字板やフレーム等の素材・仕上はキャンパス全体の景観の印象に大きな影響を与えるため、サインの素材・仕上の統一を図り、以下のような基準を定める。

【内外サイン共通】耐候性、耐食性を考慮した素材を用いる。(詳細は各サインごとに定める。例：図 3-2、3-5)

【外部サイン】外構サインの脚部はステンレスヘアライン仕上げを基本とし、サイン面は耐候性のあるカッティングシートを用いる。上部の着色部分は焼き付け塗装を基本とする。(例：図 3-2)

【内部サイン】表面は耐候性のフィルムに印刷したものを用いるなど、変更への対応を可能とし、適宜、着脱可能な仕様とする(例：図 3-3、3-4)。



図 3-2 建物名サイン



図 3-3 室名サイン 素材表面

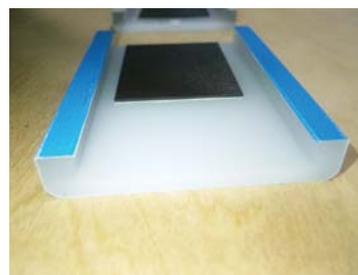


図 3-4 室名サイン 素材裏面



図 3-5 ステンレスサイン

3-7 ピクトグラム

情報をわかりやすく伝えるために図を用いた表現を行うピクトグラムは建物内外で用いられるが、以下にその規定を定め、デザインの統一を図る。

- ・JIS 規定（図 3-6）及びそれに準ずるピクトグラム（図 3-7）を使用する。
- ・外構、建物内サインとも、図 3-6、図 3-7 で不足と判断された場合には、JIS 規格を参考に、新たに製作することも可能とする。
- ・トイレのピクトグラムについては、JIS 規格によらず男子を青、女子を赤とすることも可とする。
- ・実験室危険物サインのピクトグラムについては、6-6 危険物表示サインに示す。

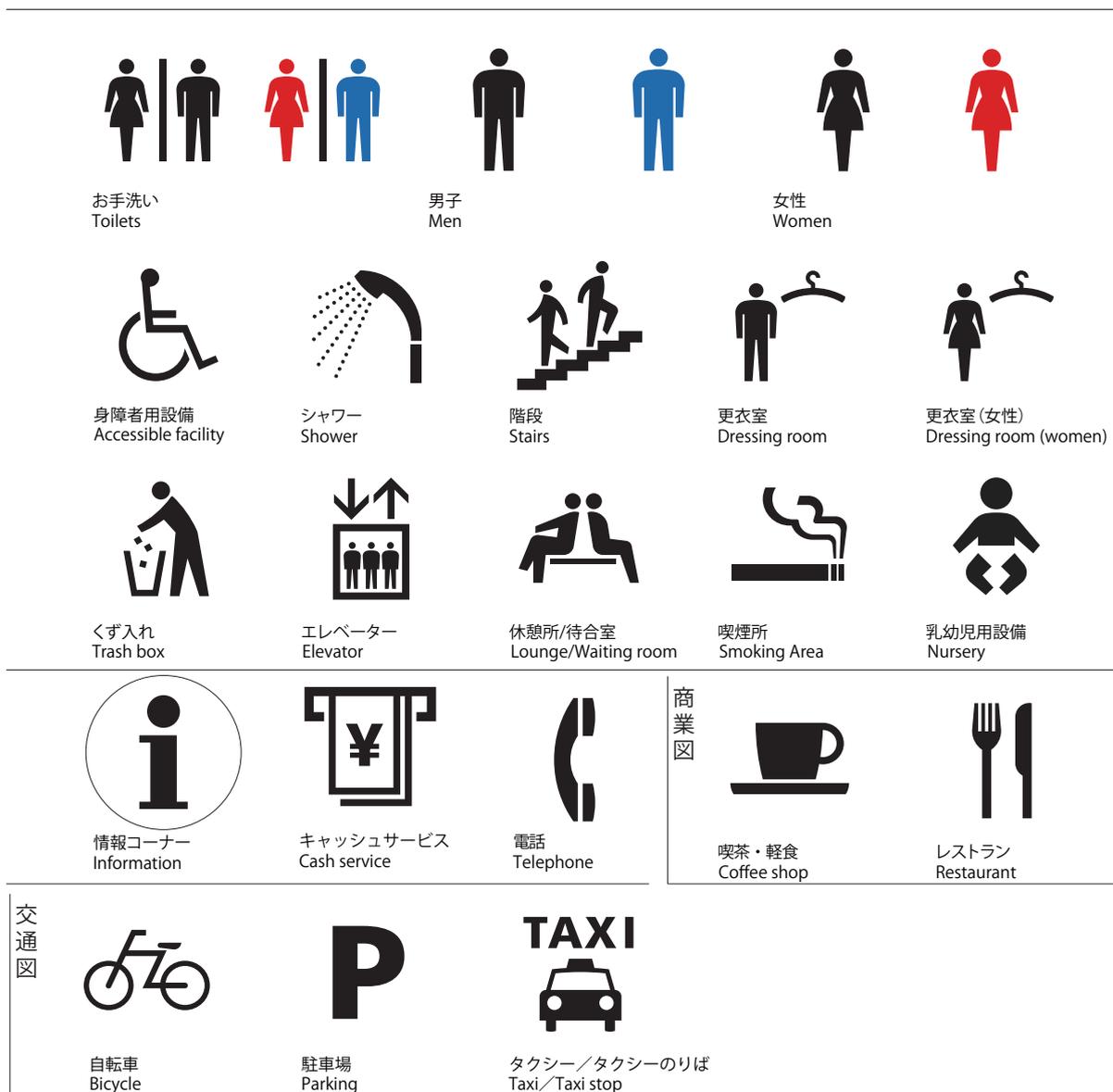


図 3-6 ピクトグラム（JIS 規格）

安全図



消火器
Fire extinguisher



非常ボタン
Emergency call button



非常口
Emergency exit

禁止図



禁煙
No smoking



自転車乗り入れ・駐輪禁止
No bicycles



駐車禁止
No parking

図 3-6 ピクトグラム (JIS 規格) (続き)



オストメイト
Ostomate



AED
AED



車両進入禁止
No entry



一般禁止
General prohibition



駐停車禁止
Prohibit parking a vehicle



駐車禁止
No parking



徐行
Crawl



一時停止
Pause



指定方向外進行禁止
Progress prohibited
outside specified direction



駐車可
Parking



信号機
Signal



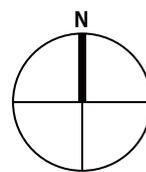
地下鉄
Subway



バス停
Bus stop



郵便局
Post office



方位
Orientation

図 3-7 ピクトグラム (JIS 規格以外)

外構サイン

Exterior Sign

- 4. 1 | 全学案内サイン
- 4. 2 | エリア案内サイン
- 4. 3 | 通り名サイン（案）・矢印サイン
- 4. 4 | 建物名サイン
- 4. 5 | 校名サイン
- 4. 6 | 外構サインの配置



2章では、現状のサインの課題を把握し、3章ではその課題に対応すべく、外構・建物内に共通するデザインガイドラインを定めた。本章では、「外構サイン（全学案内サイン、エリア案内サイン、通り名・矢印サイン、建物名サイン）」について、設置位置と構成内容（色彩や寸法等）のデザイン基準を定める。

4-1 全学案内サイン

全学案内サインは名古屋大学東山キャンパス全域の案内を目的としている。キャンパスのエントランス付近及びバス停、地下鉄入口付近に設置され、キャンパスに来た人が最初に見るサインであり、キャンパス全体を包括するものである。

(1) 設置位置 (図 4-1)

- ・キャンパスのエントランス付近及びバス停、地下鉄入口付近に設置する。

(2) 構成内容 (図 4-2)

- ・キャンパス名称、全学案内図、インデックスで構成する。
- ・それぞれの文字規定を表 4-1 に示す。

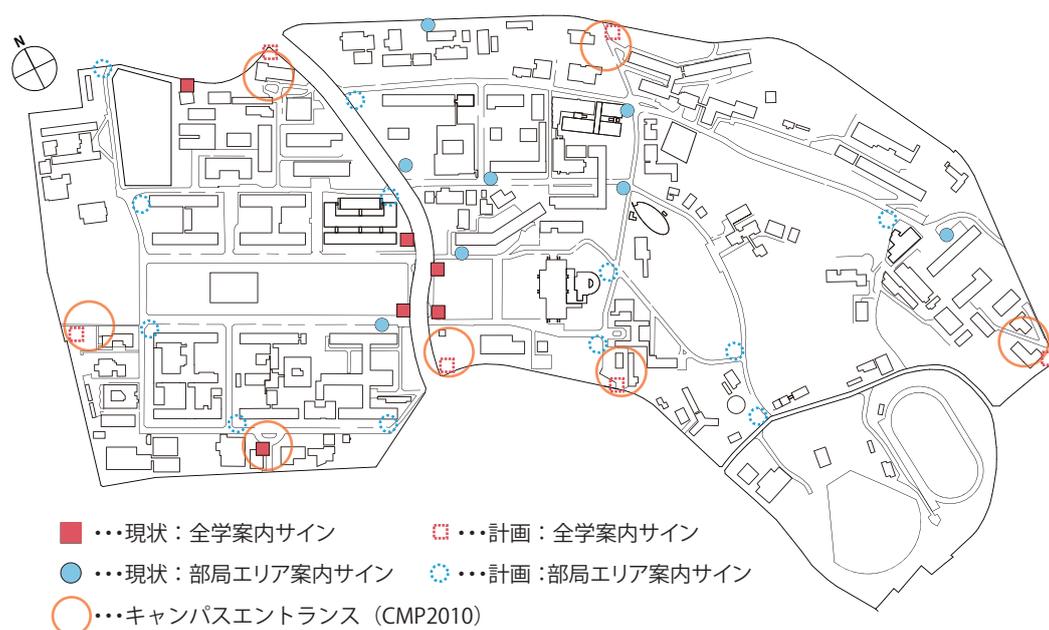


図 4-1 外構サイン現状設置位置

表 4-1 全学案内図・文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
全学案内図	公開施設	赤字・15mm 程度・M	赤字・13mm 程度・R	
	総合案内所	黒字・20mm 程度・M	黒字・17mm 程度・R	電話番号：黒字・17mm 程度・R
	現在地	黒字・20mm 程度・B	黒字・17mm 程度・B	
インデックス	組織名称	黒字・17mm 程度・M	黒字・13mm 程度・M	左寄せとする。
	併記する研究科	黒字・17mm 程度・M	黒字・9mm 程度・M	左寄せとする。
	施設名称	黒字・8mm 程度・M	黒字・7.5mm 程度・M	左寄せとする。

①キャンパス名称

- ・日本語は 250pt (100mm) 程度、英語は 90pt (40mm) 程度とする。
- ・文字の太さは日本語、英語共に新ゴ R とする。
- ・中央配置とする。
- ・名大マークを右下に記載する。

②全学案内図 (図 4-3)

i) エリア

- ・東山キャンパス全体を表示する。
- ・A~F の行分割、1~5 の列分割を行い、キャンパスをエリア分けする。
- ・各エリア内に位置する施設にはエリア番号と共に北西から南東へ向かって順に①②…の番号を振り、記載する。
- ・案内図端部に方位を記載する。大きさは直径 100mm 程度とし、3 章 4 節で定めたピクトグラムを用いる。

ii) 施設名称

- ・多くの来訪者が予想される公開施設や、キャンパス内のランドマークとして位置づけられる建物には、赤字 (C0 M100 Y100 K0) で施設名称を表記する。
- ・総合案内所 (守衛) は黒字で表記し、電話番号も併記する。
- ・現在地を赤枠で囲って表記する。
- ・それぞれの施設の文字 (色、大きさ、太さ) について定める (表 4-1)。

iii) ピクトグラム

- ・総合案内所、食堂、信号機、郵便局、地下鉄出入口等には 3 章 4 節で定めたピクトグラムを用いる。
- ・ピクトグラムの大きさは幅 12mm 程度、高さ 12mm 程度とする。
- ・案内図端部に方位を記載する。大きさは直径 100mm 程度とし、3 章 4 節で定めたピクトグラムを用いる。

③インデックス (図 4-4)

- ・インデックス左側に学部等「組織名称」を、右側にその組織が入居する「施設名称」を記載する。

i) 組織名称

- ・公開施設や食堂・売店等、多くの来訪者が予想される施設をインデックス上部に、学部等、主に学内利用者が多い施設をインデックス下部に記載する。
- ・大学院の研究科がある場合には学部名称の右横に併記する。

ii) 施設名称 (図 4-5)

- ・施設内に記念施設等がある場合には () 内に記載する。 例：博物館 (古川記念館)

iii) 住所番号 (図 4-5)

- ・施設名称の左横に記載する。
- ・高さ 13mm 程度、幅 30mm 程度とする。
- ・色彩計画 (3-5) において組織ごとに定められた色彩を用いる。
- ・記号の凡例として、D 3⑤ は全学案内図において D 行 3 列の 5 番の建物を示す。

(3) 照明

- ・夜間のための照明設備を設置する。

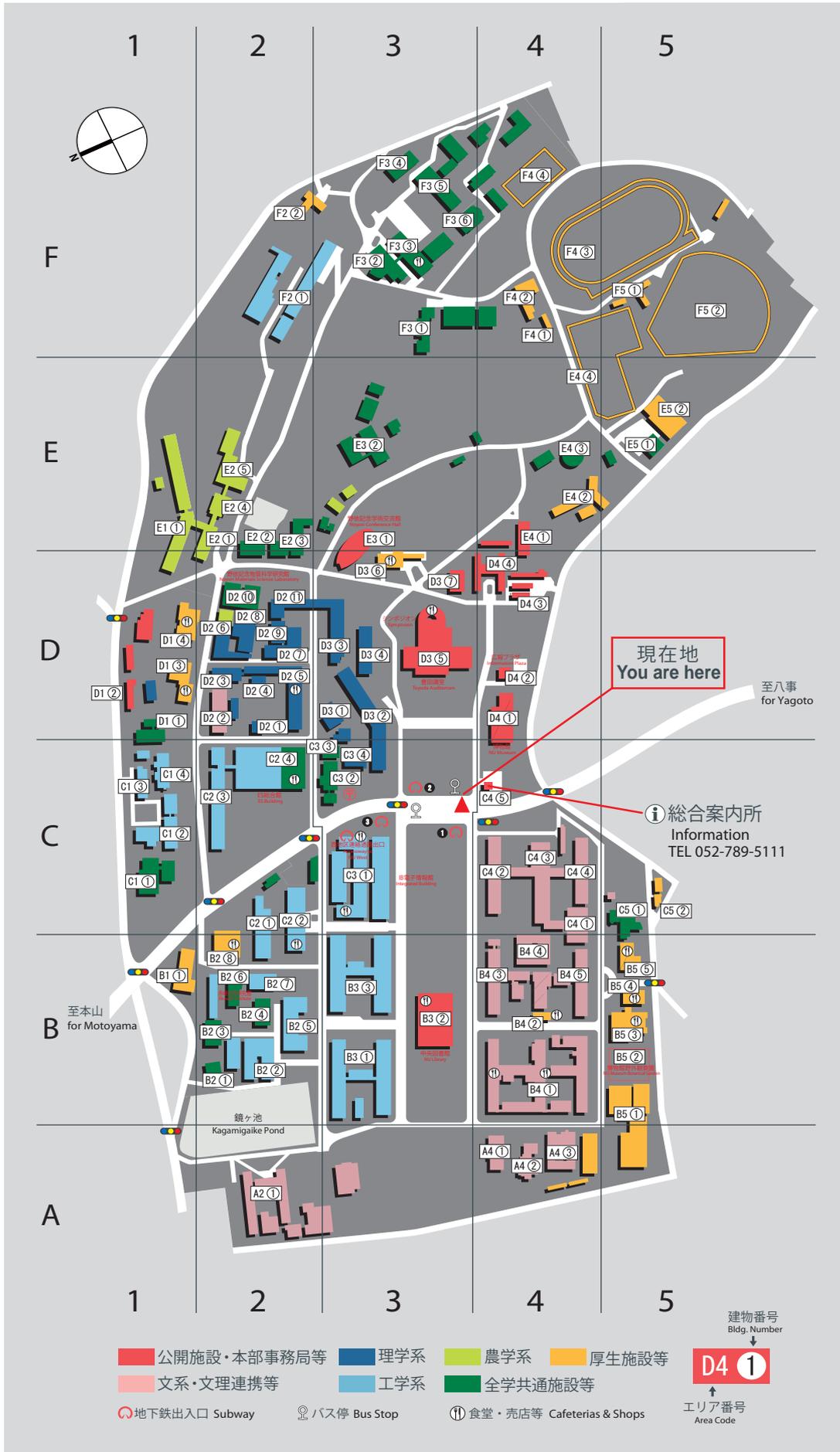


図 4-3 全学案内図

公開施設等 Open Facilities	B3 2 附属図書館(中央図書館) NU Library (Central Library) D4 1 博物館(古川記念館) M Museum (Mitsukawa Hall) B2 6 赤崎記念研究所 Mitsuki Institute	B5 2 博物館野外観察園 NU Museum Botanical Garden D4 2 広報プラザ Information Plaza D10 0 ケモストリャーラリー(野依記念物質科学研究館) Chemistry Gallery (Iyori Memorial Science Laboratory)	C4 6 総合案内所 Information C2 6 2008年ユーベル賞受賞(E5総合館) Nobel Laureates Gallery (E5 Building)
シンポジウム 国際会議等開催施設 International Conference Venues	D3 6 豊田講堂・シンポジウム Senshu Auditorium / Symposium C4 3 経済学部カンファレンスホール(法・経本館共用館) Conference Hall (Law & Economics Shared Facilities Bldg.) C3 1 大講堂(旧電子情報館) Atrium Hall (Old Building)	E3 1 野依記念学術交流館 Iyori Memorial Conference Hall D2 7 坂田・平田ホール(理学南館) Sakata & Hirata Hall (Science South Building)	B4 4 文系総合館 Regional Research Bldg. for Humanities & Social Sciences C2 4 ES-ホール(E5総合館) E & S Hall (E5 Building)
本部事務局 University Headquarters / Administrative Services	D3 1 1号館 University Headquarters Building 1 D4 6 4号館 University Headquarters Building 4 C5 1 留学生センター Education Center for International Students (ECIS)	D4 4 2号館 University Headquarters Building 2 D1 2 附属 University Headquarters Annex	E4 1 3号館 University Headquarters Building 3 C4 1 国際開発棟 Graduate School of International Development
部局事務部 Schools / Graduate Schools / Administrative Services	B4 4 文系事務部(文系総合館) Administrative Office (Humanities & Social Sciences) C2 4 工学部・工学研究科事務課(E5総合館) Administrative Office (General Affairs & Accounting), Engineering D2 2 環境学研究所・地球水循環研究センター事務部(環境総合館) Environ. Sci. Res. Center, Hydrological Researched General	B4 1 情報文化学部・情報科学研究科事務部(全学教育棟) Information Culture School / Information Science Research Institute C3 1 工学部・工学研究科事務課(旧電子情報館) Administrative Office (Educational Affairs), Engineering F3 9 研究所事務部(共同教育研究施設1号館) Administrative Office (Research Institute 1)	D2 1 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部(理学部2館) Science / Mathematical Sciences Research Institute E2 1 農学部・生命農学研究科事務部(農学部管理棟) Admin. Office, Agricultural Sciences / Biocultural Sciences B3 2 附属図書館事務部(中央図書館) Administrative Office (NU Library)
教養教育院 Institute of Liberal Arts and Sciences	B4 1 全学教育棟 Liberal Arts & Sciences Main Building	A4 1 全学教育棟A Liberal Arts & Sciences Building A	
高等研究院 Institute for Advanced Research	F3 2 高等総合研究所 Institute for Advanced Research Hall		
文学部・文学研究科 School of Letters Graduate School of Letters	B4 3 文学部本館 School of Letters / Graduate School of Letters Building		
教育学部・教育発達科学研究科 School of Education Graduate School of Education & Human Development	B4 5 教育学部本館 School of Education / Graduate School of Education & Human Development Bldg.	A2 1 教育学部附属中学校・高等学校 Affiliated Upper & Lower Secondary Schools	
法学部・法学研究科 School of Law Graduate School of Law	C4 4 法学部・法学研究科(法・経本館共用館) School of Law / Graduate School of Law & Economics Shared Facilities Bldg.	B5 5 法科大学院(アメニティハウス) Law School	
経済学部・経済学研究科 School of Economics Graduate School of Economics	C4 2 経済学部・経済学研究科(法・経本館共用館) School of Economics / Graduate School of Economics / Law & Economics Shared Facilities Bldg.		
情報文化学部 School of Informatics & Sciences	A4 3 情報科学棟 Graduate School of Information Science Building	B4 1 全学教育棟 Liberal Arts & Sciences Main Building	
理学部・理学研究科 School of Science Graduate School of Science	D3 2 A館 Building A D2 9 B館 Building B D2 6 C館 Building C D2 6 理学館 Shared Facilities Building D2 1 理学南館 Science South Building	D3 8 B館 Building B D2 5 E館 Building E C3 4 理学部共用館 Shared Facilities Building D2 7 理学南館 Science South Building	D2 1 C館 Building C D2 4 F館 Building F D2 1 超高性能発生装置室 Ultra High Pressure Laboratory D2 8 理学館 Science Hall
工学部・工学研究科 School of Engineering Graduate School of Engineering	C2 4 工学研究科中央棟(E5総合館) Central Bldg. of Graduate School of Engineering (E5 Bldg.) B3 3 2号館 Building 2 F1 1 5号館 Building 5 C1 1 3号館北棟 Building B, North Wing B2 2 応用機械研究実験棟 Mechanical & Aerospace Engineering Laboratory	C3 1 旧電子情報館 Integrated Building B3 1 3号館 Building 3 C2 1 7号館A棟 Building 7, A Wing C1 4 8号館南棟 Building 8, South Wing B2 7 機械工学実験棟 Mechanical Engineering Laboratory	B2 5 1号館 Building 1 C2 3 5号館 Building 5 C2 2 7号館B棟 Building 7, B Wing C1 2 9号館 Building 9 C3 1 創生工センター(旧電子情報館) Creation Plaza (Old Building)
農学部・生命農学研究科 School of Agricultural Sciences Graduate School of Agricultural Sciences	E1 1 A館 Building A E2 1 管理棟 Administration Building	E2 5 B館 Building B D2 6 環境館 Science & Agricultural Building	E2 4 講義棟 Lecture Building
国際開発研究科 Graduate School of International Development	C4 1 国際開発棟 International Development Building		
多元数理科学研究科 Graduate School of Mathematics	D3 6 多元数理科学棟 Graduate School of Mathematics Building		
国際言語文化研究科 Graduate School of Languages & Cultures	A4 2 国際言語文化棟 Graduate School of Languages & Cultures Building	B4 1 全学教育棟 Liberal Arts & Sciences Main Building	B4 4 文系総合館 Regional Research Bldg. for Humanities & Social Sciences
環境学研究科 Graduate School of Environmental Studies	D2 2 環境総合館 Environmental Studies Hall D2 6 理学部本館 School of Science / Graduate School of Science, Building E	B4 1 全学教育棟 Liberal Arts & Sciences Main Building F3 4 地球水循環研究センター Hydrological Atmospheric Research Center	C2 4 環境学研究科(E5総合館) Graduate School of Environmental Studies (E5 Building)
情報科学研究科 Graduate School of Information Science	A4 3 情報科学棟 Graduate School of Information Science Building	B4 1 全学教育棟 Liberal Arts & Sciences Main Building	C3 1 旧電子情報館 Integrated Building
総合保健体育科学センター Research Center of Health, Physical Fitness & Sports	E5 1 総合保健体育科学センター Research Center of Health, Physical Fitness & Sports	C3 3 保健管理室 Health Administration Office	
素粒子宇宙起源研究機構 Kugayshi-Matsuda Institute for the Origin of Physics in the universe (IMI)	C2 4 基礎理論研究センター(E5総合館) Center for Fundamental Studies (E5 Building)	C2 4 現象解析研究センター(E5総合館) Center for Phenomenological Studies (E5 Building)	
附置研究所・全国共同利用施設 Research Institutes Inter-University Service Facilities	E3 2 環境医学研究所 Institute of Environmental Medicine F3 6 エコトピア科学研究所(共同教育研究施設2号館) Ecotopia Science Institute	E4 9 太陽地球環境研究所(宇宙線望遠鏡研究室) Center for Geoenvironmental Studies (UTS) F3 1 地球水循環研究センター Hydrological Atmospheric Research Center	F3 9 太陽地球環境研究所(共同教育研究施設1号館) Center for Geoenvironmental Studies (UTS) C3 2 情報基盤センター Information Technology Center
学内共同教育研究施設等 その他教育研究施設 Inter-Departmental Education & Research Center Other Facilities	D1 2 大文学資料室(本部別館) Center for Developmental Clinical Psychology & Psychiatry B4 5 発達心理科学教育研究センター(教育学部本館) Center for Psychological Research D2 2 情報メディアセンターラボ(工学部7号館8棟) Information Media Center Laboratory B2 6 赤崎記念研究センター(赤崎記念研究所) Research Center C5 1 法政国際教育協力研究センター(留学生センター) Research Center for Asian Legal Exchange E2 2 生物機能開発利用研究センター Bioscience & Biotechnology Center F3 6 総合研究実験棟 Research Laboratory Building	D1 2 男女共同参画室(本部別館) Center for Gender Equality B4 4 高等教育研究センター(文系総合館) Center for the Studies of Higher Education C1 4 シンクロトロン光研究センター(工学部8号館南棟) Synchrotron Radiation Research Center C3 1 留学センターアドバイザー・カウンセリング部門(旧電子情報館) Education Center for International Students & Technology C1 1 先端技術共同研究施設 Research Facility for Advanced Science & Technology D1 1 超高性能電子顕微鏡施設 High Voltage Electron Microscope Laboratory E2 3 アイソトープ総合センター Radioisotope Research Center	D4 1 年代測定総合研究センター(古川記念館) Chronological Research Center D2 2 災害対策(環境総合館) Disaster Management Office C2 2 学生情報総合センター(工学部7号館8棟) Center for Student Communication B2 1 高効率エネルギー変換研究施設西館 Research Facility for Advanced Energy Conversion, West Building C5 1 留学生センター Education Center for International Students (ECIS) D2 10 物質科学国際研究センター(野依記念物質科学研究館) Research Center for Materials Science F3 6 農学国際教育協力研究センター(共同教育研究施設2号館) International Cooperation Center for Agricultural Education
産学官連携関連施設 Industry-Academia-Government Cooperation Facilities	B2 6 インキュベーション施設 Incubation Facility F3 4 グリーンビークル材料研究施設 Material Research Laboratory for Green Vehicle	B2 4 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー Venture Business Laboratory	B2 6 産学官連携推進本部(赤崎記念研究所) Institute for Industry/Academia/Government Cooperation (Mitsuki Institute)
スポーツ関連施設 Sports Facilities	B5 1 体育館・屋内プール Gymnasium / Indoor Swimming Pool F4 1 体育系課外活動共用施設 Extra Curricular Athletic Activity Shared Facilities F4 4 硬式野球場 Softball Tennis Courts	E4 4 硬式球場 Tennis Courts F4 2 体育倉庫 Training Camp Facility F5 1 総合運動場複合棟 Sports Science Complex Administration Building	E5 2 新体育館 New Gymnasium F4 3 陸上競技場 Athletic Field F5 2 野球場 Baseball Field
食堂・売店等 Cafeterias & Shops	B3 2 スターバックス(中央図書館) STARBUCKS COFFEE B4 1 PHOENIX CAFE ROOM(全学教育棟) PHOENIX CAFE ROOM C2 4 エンジョイ(E5総合館) Enjoy Cafe (E5 Building) B2 6 北部厚生会館 NU CO-OP North - Cafeterias & Shops B5 4 南部厚生会館 NU CO-OP South - Cafeterias & Shops D1 4 グリーンザロン東山 Green Sabot Higashiyama	D3 6 ユニバーサルクラブ(豊田講堂・シンポジウム) Restaurant UNIVERSAL CLUB D2 5 シトルエスビル(理学部2館) Citrus Cafe SUTSU ES Building C3 1 IBカフェ(旧電子情報館) IB Cafe B4 2 1 ファミリーマート Family Mart B5 5 アメニティハウス Amenity House D3 6 職員クラブ Staff Hall	B4 1 フランコ(全学教育棟) FRANCO C2 2 七味亭(工学部7号館8棟) Seven Pepper (Building 7, 8 Wing) F3 3 共同教務課(共同教育研究施設1号館) Shared Office (Research Institute 1) B5 3 南館食堂 South Cafeteria D1 3 フォレット FOR21 Books & Cafe
その他 Other	D1 1 学生会館 Health Administration Office E4 2 インターナショナルレジデンス東山 International Residence Higashiyama	C3 3 保健管理室 Health Administration Office F2 2 リサーチーズ・ビレッジ東山 Researchers Village Higashiyama	C5 2 名大八雲会館 NU Takuma Hall

図 4-4 インデックス

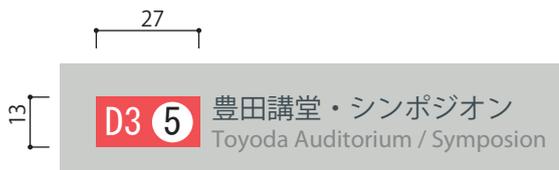


図 4-5 施設表記

4-2 部局エリア案内サイン

部局エリア案内サインは、部局周辺のエリア情報の把握を目的としている。全学案内サインでエリアを把握した来訪者が、目標とする部局エリア内にある建物に到達するまでの経路上にあることが望ましい。

(1) 設置位置 (図 4-1)

- ・各部局への公道からの入り口付近を中心にキャンパス全体にバランスよく配置する。
- ・歩道の通行や見通しの障害とならない場所に設置する。

(2) 構成内容 (図 4-6)

- ・エリア名称、エリア案内図、インデックスで構成する。
- ・それぞれの文字規定を定める (表 4-2)。

① エリア名称

- ・「〇〇学部周辺案内」と表記する。
- ・日本語は 50mm 程度、英語は 20mm 程度とする。
- ・文字の太さは日本語、英語共に R とする。
- ・中央配置とする。
- ・名古屋大学のロゴマークを右下に記載する。

② エリア案内図

i) エリア

- ・原則として現在地を中心に **400m 四方程度**の範囲を記載するが、設置位置等の状況に応じて記載範囲を調整する。
- ・全学案内サインのエリア分けに従う。
- ・各エリア内に位置する施設には住所番号を記載する。

ii) 部局名称

- ・部局名称を**黒字**で記載する。
- ・エリア案内図内に他の部局に属する施設がある場合にはその部局名称も記載する。

iii) 施設名称

- ・施設名称を黒字で表記する。
- ・現在地を赤字 (C0 M100 Y100 K0) で表記する。

iv) ピクトグラム

- ・食堂、郵便局、信号機、地下鉄出入口等には、3章4節で定めたピクトグラムを用いる。
- ・ピクトグラムの大きさは幅 20mm 程度、高さ 20mm 程度とする。
- ・案内図端部に方位を記載する。大きさは直径 85mm 程度とし、3章4節で定めたピクトグラムを用いる。

③インデックス（図 4-6 下部、表 4-2）

・インデックス左側に学部等「組織名称」を、右側にその組織が入居する「施設名称」を記載する。

i) 組織名称

- ・公開施設や食堂・売店等、多くの来訪者が予想される施設をインデックス上部に、学部等、主に学内の人が利用する施設をインデックス下部に記載する。
- ・大学院の研究科がある場合には学部名称の右横に併記する。

ii) 施設名称

- ・施設内に記念施設等がある場合には（ ）内に記載する。 例：博物館（古川記念館）

iii) 住所番号（図 4-5）

- ・施設名称の左横に記載する。
- ・高さ 13mm 程度、幅 30mm 程度とする。
- ・色彩計画（3章 2 節）において組織ごとに定められた色彩を用いる。
- ・D 3 ②は全学案内図において D 行 3 列の②番の建物を示す。

iv) 記念施設名称

- ・エリア内に存在する記念施設を案内図の右下に記載する。各記念施設には、北西から南東へ向かって順に①②…の番号を振り、案内図と対応させる。
- ・左寄せとする。

表 4-2 エリア案内図・文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
エリア案内図	部局名称	黒字・30mm 程度・M	黒字・25mm 程度・R	
	施設名称	黒字・15mm 程度・M	黒字・13mm 程度・R	
	現在地	赤字・20mm 程度・B	赤字・33mm 程度・B	
インデックス	組織名称	黒字・18mm 程度・M	黒字・25mm 程度・M	左寄せとする。
	専攻・学科名称	黒字・10mm 程度・M	黒字・10mm 程度・M	左寄せとする。
	施設名称	黒字・10mm 程度・M	黒字・9mm 程度・M	左寄せとする。

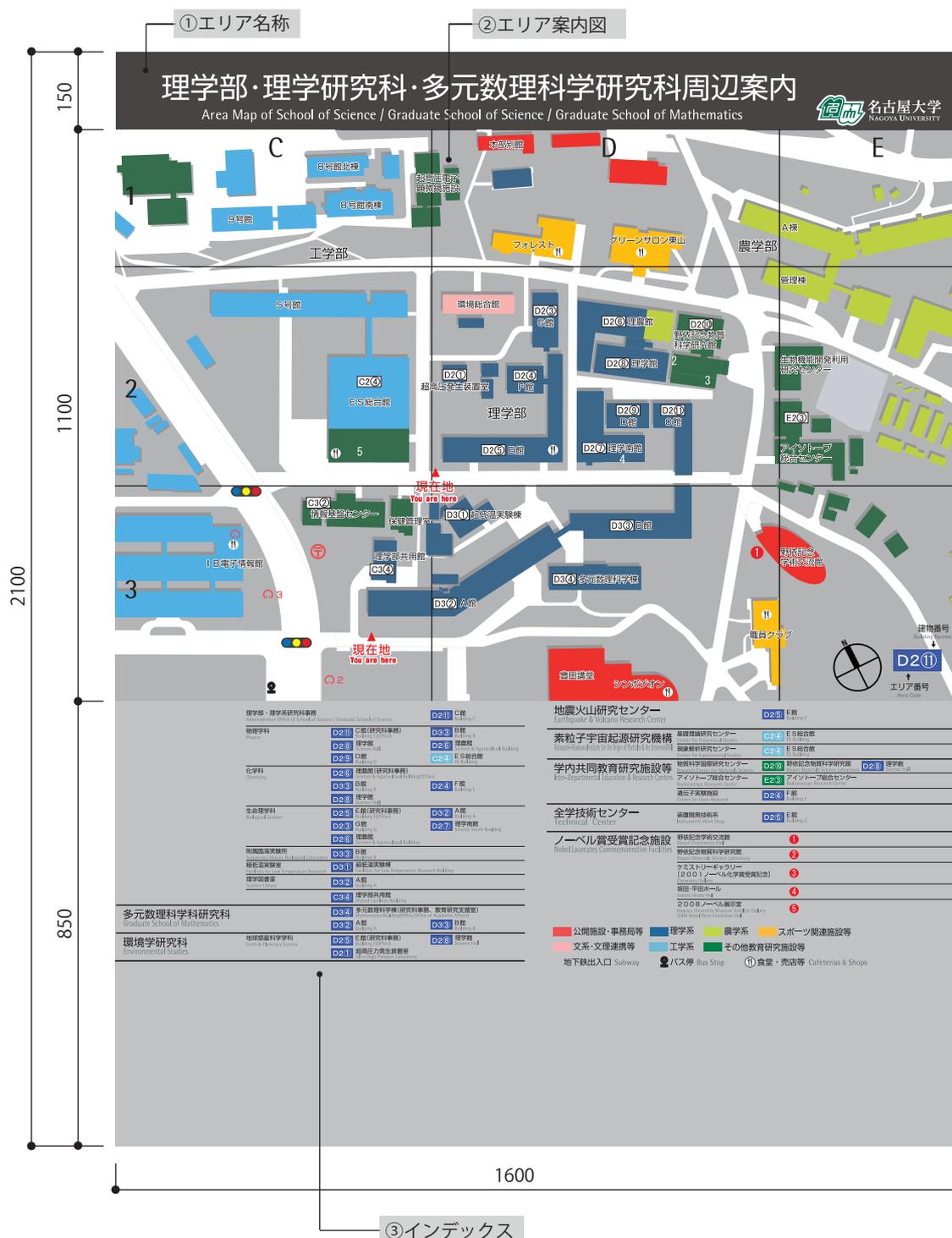


図 4-6 エリア案内サイン (例)

4-3 通り名サイン（案）・矢印サイン

2章で述べた、設置基数・包括範囲・デザイン等の課題を解決するための方法として、新しく「通り名サイン」の設置が考えられている。通り名サインが、キャンパス案内を円滑にする上で一定の効果を持つことは被験者実験によって明らかにされていることから、今まで車での移動を想定して設置されてきた矢印サインのデザインを一新して、新しく通り名・矢印サインを設置する方針とする。通り名は、西地区・東地区で分け、ランドマークとなる建物名を入れるなどして設定したが、運用にあたり、たとえば通り名の公募を実施するなどして学内の関心を高める手法も有効と思われる。

通り名・矢印サインは、キャンパス内の各交差点に設置し、目的の建物の方向を確認することを目的とする。また、通り名を付けることで道案内も容易になり、現在位置の把握の一助となる。

通り名・矢印サインに標示する建物・組織は、原則として、公開施設、ホール、大教室がある多くの来訪者が予想される建物、10,000㎡を超える建物、および研究科の組織名とする。

(1) 通り名（図 4-7、図 4-11）

- ・キャンパス内の主要な 14 本の通りに対して通り名をつける。

(2) 設置位置（図 4-8、図 4-13）

- ・キャンパス内の各交差点付近に設置する。

(3) 構成内容（図 4-9）

- ・通り名、施設名称、方向矢印で構成する。
- ・それぞれの文字規定を定める（表 4-3）。

①通り名

- ・通り名の両側に幅 120mm 程度のラインを入れる。
- ・名大マークを右下に記載する。

②施設名称

- ・下地は色彩計画（3章2節）における UI カラーを用いる。
- ・建物名称掲載範囲について、例えば 8 施設以内とするなどのルールを検討する。

③方向矢印（図 4-10）

- ・施設名称の左横に記載する。
- ・建物への経路が複数ある場合には、通りの広さや舗装状況等を勘案し、より分かりやすい方の道を示す。
- ・下地は色彩計画（3-5）における UI カラーを用いる。

表 4-3 通り名・矢印サイン・文字規定

	日本語	英語	備考
通り名	白字・54mm 程度・M	白字・23mm 程度・M	中央配置とする。
施設名称	白字・40mm 程度・R	白字・24mm 程度・R	左寄せとする。

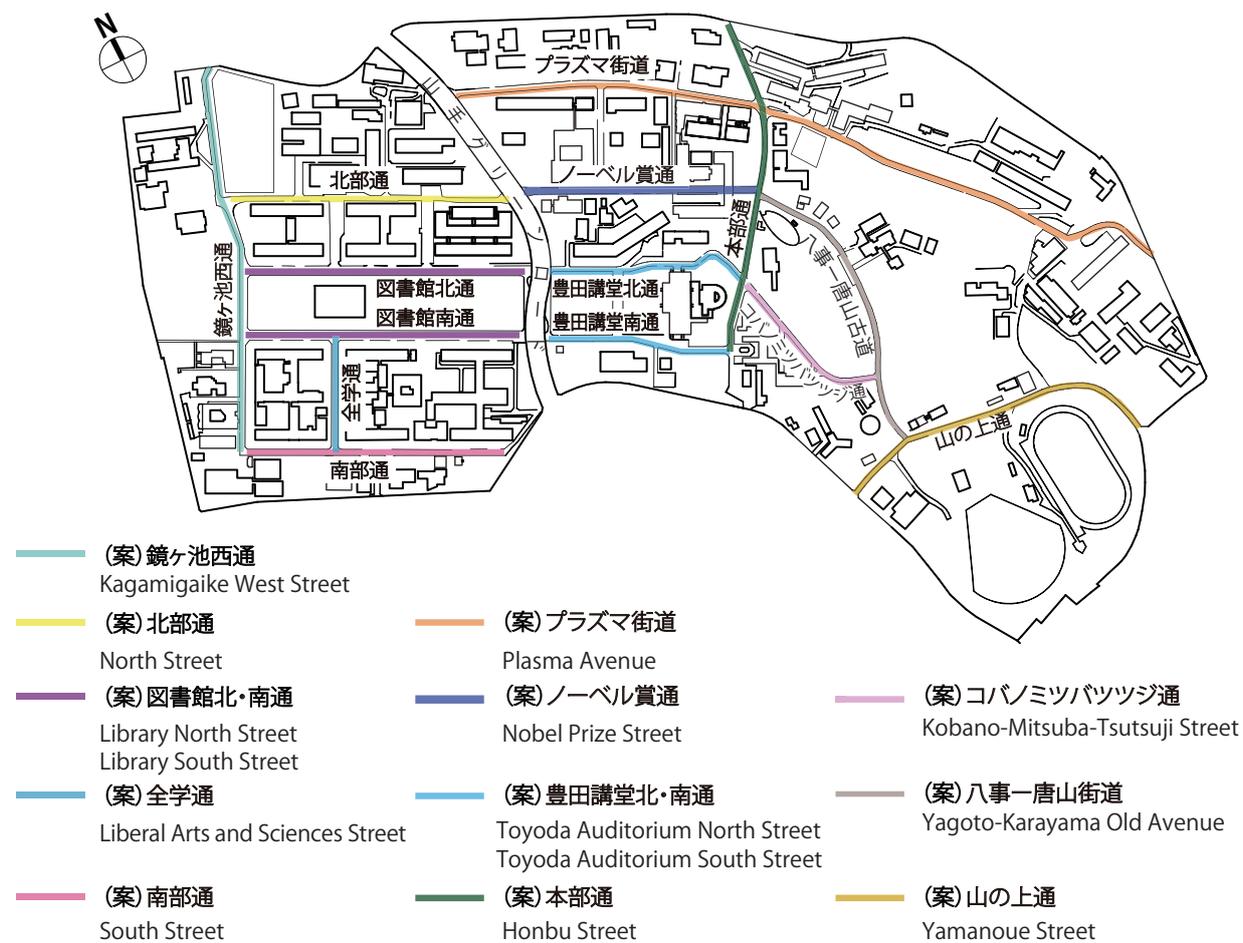


図 4-7 (仮案) 通り名

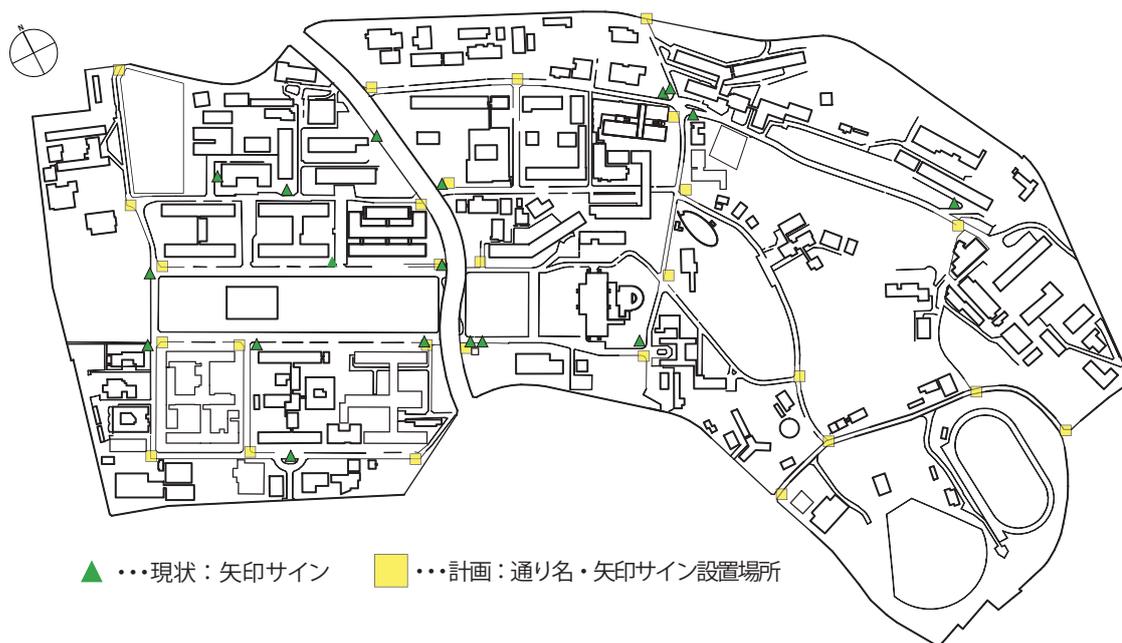


図 4-8 通り名・矢印サイン設置位置

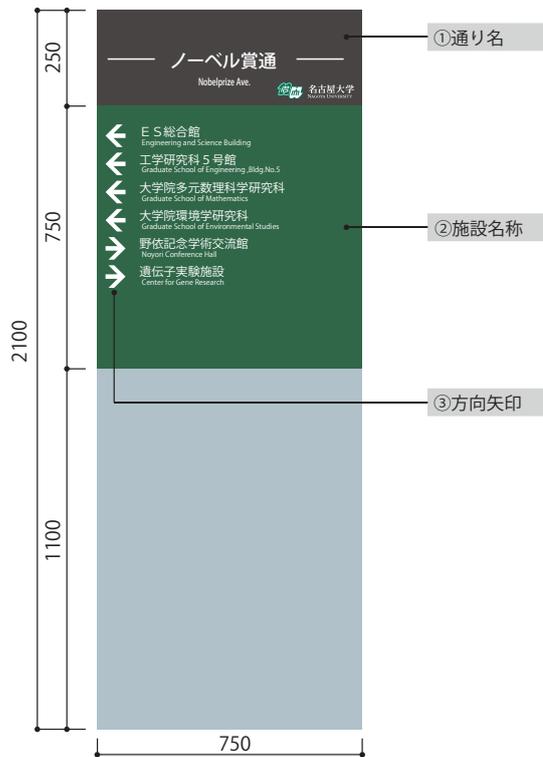


図 4-9 通り名・矢印サイン

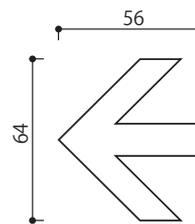


図 4-10 方向矢印



> 図書館北通



> 図書館南通



> 南部通



> 北部通

図 4-11 各通り写真 (次頁へ続く)



> 鏡ヶ池西通



> 全学通



> プラズマ街道



> 本部通



> 豊田講堂南通



> 豊田講堂北通



> コバノミツツジ通



> 山の上通

図 4-11 各通り写真

4

4-4 建物名サイン

建物名サインは、建物の名称を把握することを目的とする。また、当該建物の周辺案内図を併記することで、エリア案内サインを補助する役割をもつ。建物名サインを付ける建物は、延床面積 **1,000 m²以上の研究室**等の居室がある建物とする。

(1) 設置位置

- ・建物の主要な出入り口に近く、かつ通りから見やすい位置に設置する。
- ・主要な出入り口が複数ある場合には必要に応じて設置する。

(2) 構成内容 (図 4-12)

- ・建物名称、組織名称、周辺案内図で構成する。
- ・それぞれの文字規定を定める (表 4-4)。

①建物名称

- ・住所番号は幅 120mm 程度、高さ 50mm 程度とし、サイン右上に記載する。
- ・住所番号の下地は色彩計画 (3 章 2 節) において組織ごとに定められた色彩を用いる。
- ・名大マークを右下に記載する。

②組織名称

- ・下地は色彩計画 (3 章 2 節) において組織ごとに定められた色彩を用いる。又、原則として全学案内図で使用している色と整合させ、分かりやすくする。

③周辺案内図

- ・設置建物を中心に **300m 四方程度の範囲**を記載する。
- ・縮尺は 1/1000 ~ 1/600 程度として周辺状況に合わせて調整する。
- ・記載内容はエリア案内図に準ずる。
- ・総合案内所、食堂、信号機、郵便局、地下鉄出入り口等には 3 章 4 節で定めたピクトグラムを用いる。
- ・ピクトグラムの大きさは幅 12mm 程度、高さ 12mm 程度とする。

表 4-4 建物名サイン・周辺案内図 文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
建物名	建物名称	白字・50mm 程度・M	白字・23mm 程度・M	中央配置とする。
	組織名称	白字・30・19mm 程度・M	白字・19・11mm 程度・M	左寄せとする。
周辺案内図	施設名称	黒字・7mm 程度・M	黒字・6mm 程度・R	
	現在地	赤字・12mm 程度・B	赤字・7mm 程度・B	



図 4-12 建物名サイン

4-5 外構サインの配置

1章2節でサイン計画の基本方針について述べたが、キャンパスをあらゆる人に分かりやすく、アクセスしやすいものとするためには、サインの配置計画（位置・情報・大きさ等）が極めて重要となる。無計画なサイン配置は、サインの量の増大や氾濫を招くだけでなく、来訪者の迷いを引き起こす原因ともなる。今までのサインマニュアルには配置計画に対する規定はなされておらず、それが無計画なサイン配置を引き起こしてきた。

本節では、2章で把握した現状サインの課題を元に、今後のサイン配置計画として「アクションプラン」（今後の整備によって目指すべき配置計画）を提示する（図4-13）。赤丸（点線）は、**キャンパスのゲート**となる位置に**全学案内サイン**を設けることで、キャンパスの範囲を明確化し、来訪者の認識を高めるものである。

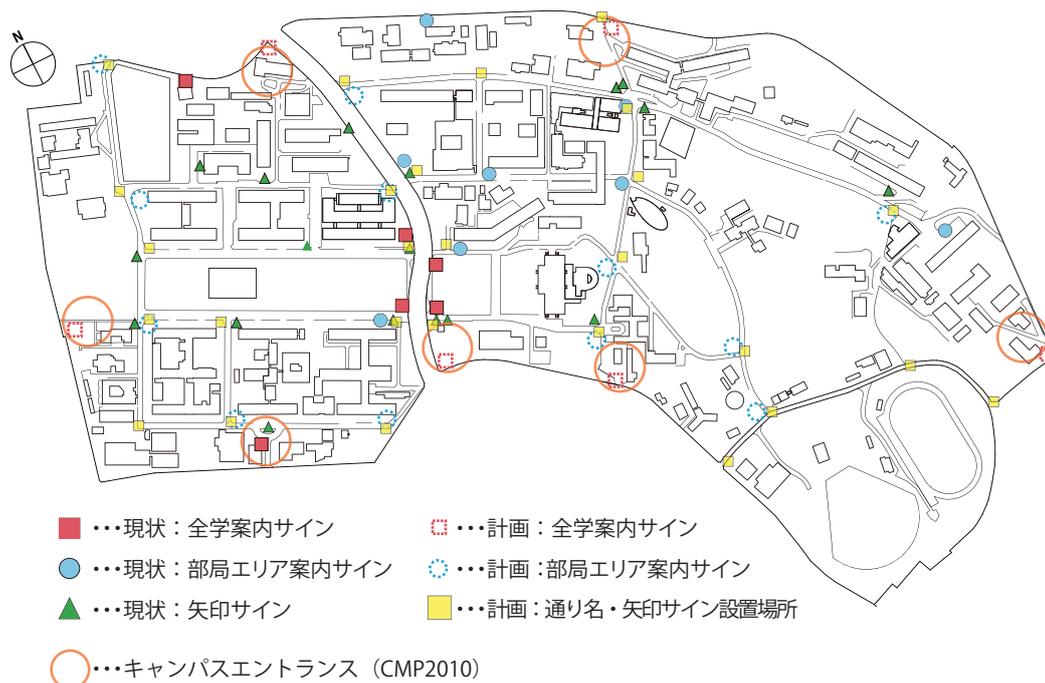


図4-13 外構サイン設置計画アクションプラン

建物内サイン

Interior Sign

- 5. 1 | 総合案内板
- 5. 2 | 各階案内板
- 5. 3 | 組織・室名サイン
- 5. 4 | ピクトサイン



4章では、外構サインについてより詳細な基準を定めた。本章では、「建物内サイン（総合案内板・各階案内板・室名サイン・ピクトグラム）」について、設置位置と構成内容（色彩や寸法等）のデザイン基準を定める。

5-1 総合案内板

総合案内板は建物内に入っている組織及び入居者の所在地の確認と、共用室の所在地や各階の構成の確認を目的としている。

（1）設置位置

- ・建物のエントランスホールに設置する。
- ・エントランスホールが複数ある場合には必要に応じて適宜設置する。

（2）構成内容（図 5-1）

- ・建物名称、組織名称、入居者名、室名、室番号案内、フロア案内図、周辺案内図で構成する。
- ・それぞれの文字規定を定める（表 5-1）。

①建物名称

- ・建物の正式名称（附属名称がある場合には附属名称も）を記載する。

②組織名称、入居者名、室名、室番号案内

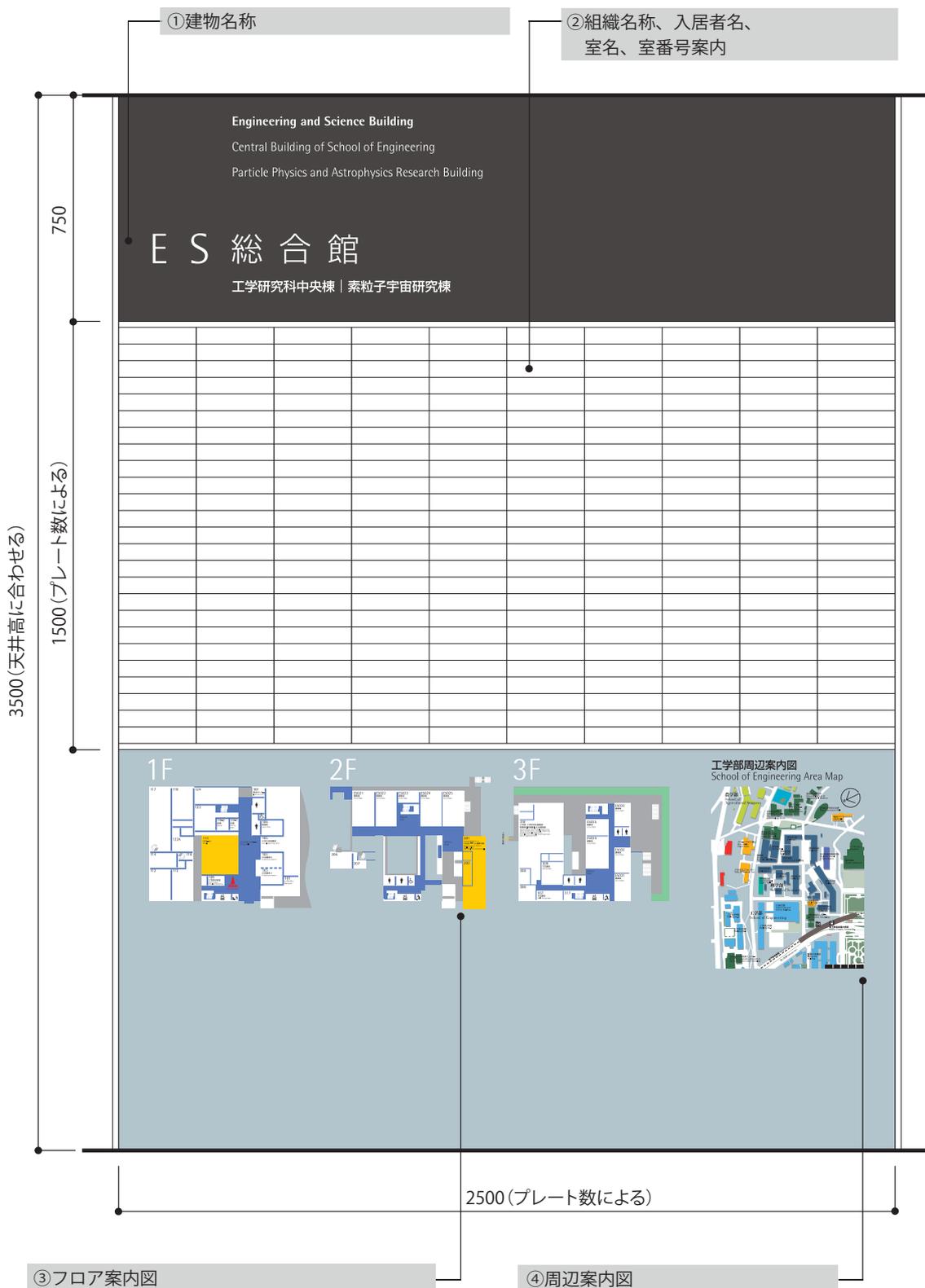
- ・記載内容
 - [A] 学部、研究科、研究所、センター等の部局名称：黒色プレート
 - [B] 専攻、学科、分野等の名称：部局色プレート
 - [C] 講座、研究室等の名称（必要に応じて記載）：部局色プレート
 - [D] 入居者氏名（役職名は記載しない）：白色プレート
 - [E] 組織内の事務室、会議室、講義室、研究室、実験室等の室名称：白色プレート
 - [F] [D]、[E] の室番号：部局色プレート
- ※ 組織区分ごとに階構成がなされていることが多いため、概ね左から右へ低層から高層となるよう配列する。
- ※ プレート数は入居者数によるものとする。

③フロア案内図（図 5-1）

- 下地色
 - ・下地の色はグレー（C0 M0Y0 K40）とする。
- エリア
 - ・各階の平面図を記載する（階数が多く記載しきれない場合は、共用室を含む主要階のみを記載する）。

表 5-1 総合案内板・文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
総合案内板	正式名称	黒字・125mm 程度・M	黒字・46mm 程度・M	
	附属名称	黒字・50mm 程度・R	黒字・46mm 程度・R	
フロア案内図	室番号	黒字・13mm 程度・M		
	室名称	黒字・8mm 程度・R	黒字・5mm 程度・R	
	現在地	赤字・10mm 程度・B	赤字・9mm 程度・B	



5

図 5-1 総合案内板 記載情報

- ・縮尺は 1/200 程度とする。
- ・現在地に正対する向きを上にして表記する。

iii) 室名称

- ・全ての室の室名および室番号を記載する。
- ・講義室、展示室等、公開性が高い共用の諸室名を黒字で表記する。
- ・現在地を赤字（C0 M100 Y100 K0）で表記し、矢印を記入する。
- ・廊下は青色（C70 M50 Y0 K0）で表記し、展示室等、多くの来訪者の利用が主に想定されている諸室は黄色（C0 M83 Y100 K0）で表記する。

iv) ピクトグラム

- ・EV、トイレ、AED 等には 3 章 4 節で定めたピクトグラムを用いる。
- ・ピクトグラムは幅 15mm 程度、高さ 15mm 程度とする。

④ 周辺案内図

- ・設置建物を中心に **300m 四方程度の範囲**を記載する。
- ・建物名サインの周辺案内図に準ずる。

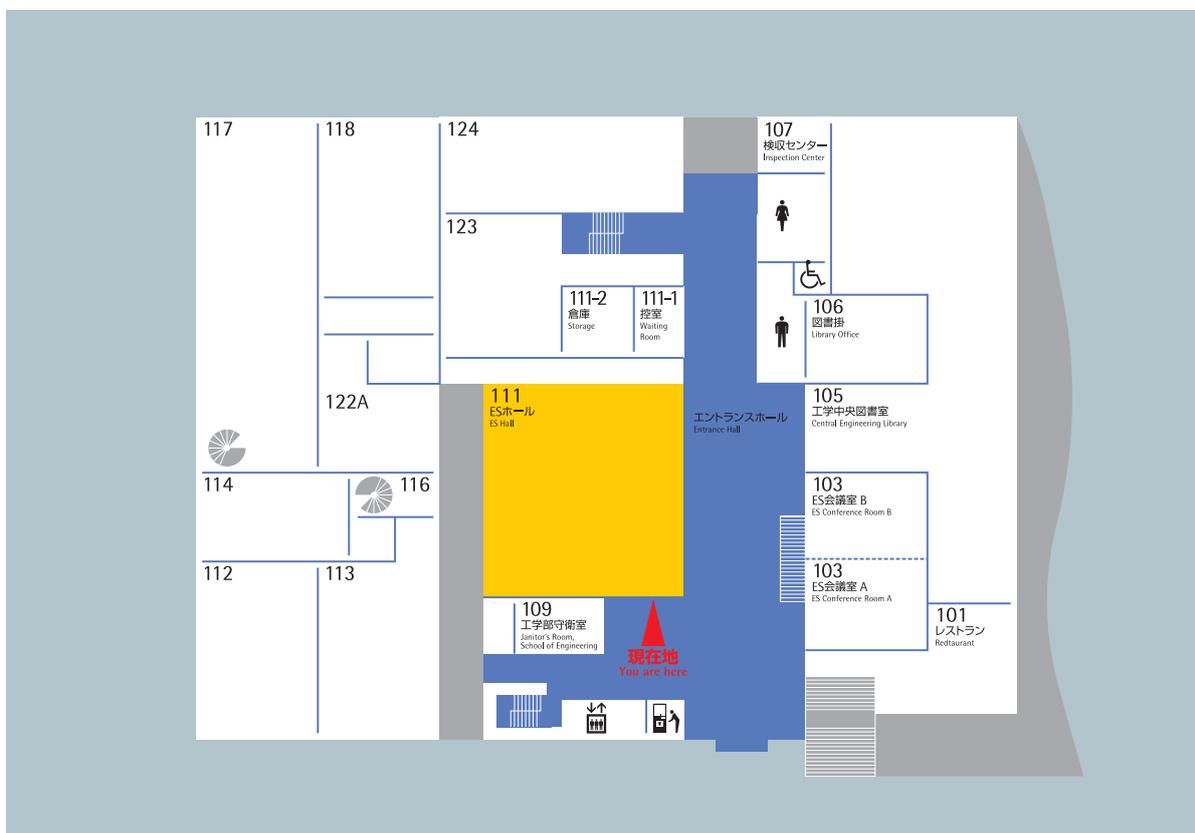


図 5-2 フロア案内図拡大図

5-2 各階案内板

当該フロアに入居する組織、入居者、共用室の所在地の確認を目的としている。

(1) 設置位置

- ・各階のエレベーターホールに設置する。
- ・エレベーターホールが複数ある場合には必要に応じて適宜設置する。

(2) 構成内容 (図 5-3)

- ・階数、建物名称、組織名称・入居者名・室名・室番号案内、フロア案内図で構成する。
- ・原則として、AED、消火栓の位置を記入する。また、講義室の室内側には、避難ルートを示す案内図を設置することを検討する。
- ・それぞれの文字規定を定める (表 5-2)。

①階数、建物名称

i) 階数

- ・上部に階数を記載する。

ii) 建物名称

- ・建物の正式名称を (付属名称がある場合には付属名称も) 記載する。

②組織名称、入居者名、室名、室番号案内

- ・組織区分ごとに組織名称、入居者名、室名を黒字で表記する。
- ・総合案内板 (5 章 1 節) に準ずる。

③フロア案内図

- ・総合案内板フロア案内図 (5 章 1 節) に準ずる。

表 5-2 各階案内板・文字規定

	日本語	英語	備考
階数	黒字・190mm 程度・R		左寄せとする。
建物正式名称	黒字・40mm 程度・B	黒字・40mm 程度・M	左寄せとする。
建物付属名称	黒字・40mm 程度・R	黒字・40mm 程度・R	左寄せとする。

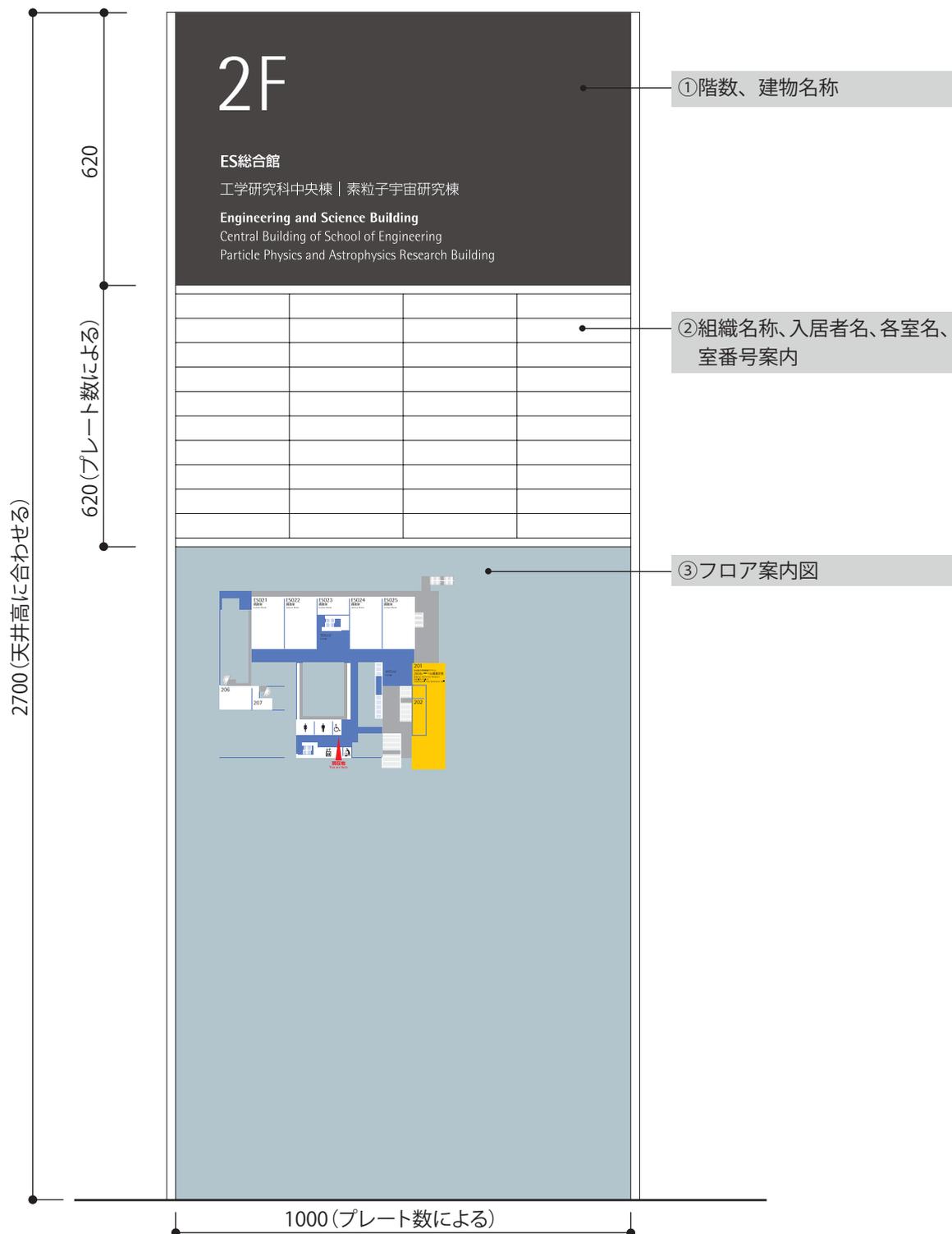


図 5-3 各階案内板 記載情報

5-3 組織・室名サイン

室名または入居者、及び室番号の確認を目的としている。原則として着脱式プレートサインを使用し、室名変更の可能性の低い室についてはカッティングシートサインを使用する。

着脱式プレートサイン

(1) 設置する室

- ・教職員の居室、実験室、研究室等の各室の各室及び組織名称については、変更の可能性があるため、着脱可能なマグネットを用いた着脱式プレートサインを用いる。

(2) 設置位置 (図 5-6)

- ・床面から高さ **1650mm 程度** の位置に設置する。

(3) 構成内容 (図 5-4)

- ・組織名称または室名・室番号、教職員名・室番号で構成する。
- ・それぞれの文字規定を定める (表 5-3)。

①室名等

- ・日本語・英語の割り付けについては下表に規定する。

②室番号

- ・下地は色彩計画 (3 章 2 節) において組織ごとに割り当てられた色彩を用いる。

表 5-3 着脱式プレートサイン・文字規定

	日本語	英語	備考
組織名称・室名等	黒字・23mm 程度・M	黒字・14mm 程度・R・半角	日本語は均等割り付け、英語は左寄せとする。
室番号	黒字・23mm 程度・R・半角		中央配置とする。

カッティングシートサイン

(1) 設置する室

- ・講義室、会議室等、室名変更の可能性が低い室については、建物全体のデザインを考慮して、必要な場合はカッティングシートサインを用いる。

(2) 設置位置 (図 5-6)

- ・床面から高さ **1320mm 程度 (下端)** の位置に設置する。

(3) 構成内容 (図 5-5)

- ・室名、室番号で構成する。
- ・それぞれの文字規定を定める (表 5-4)。

表 5-4 カッティングシートサイン・文字規定

	日本語	英語	備考
室名	黒字・27mm 程度・R	黒字・18mm 程度・R・半角	左寄せとする。
室番号	黒字・56mm 程度・R・半角		左寄せとする。

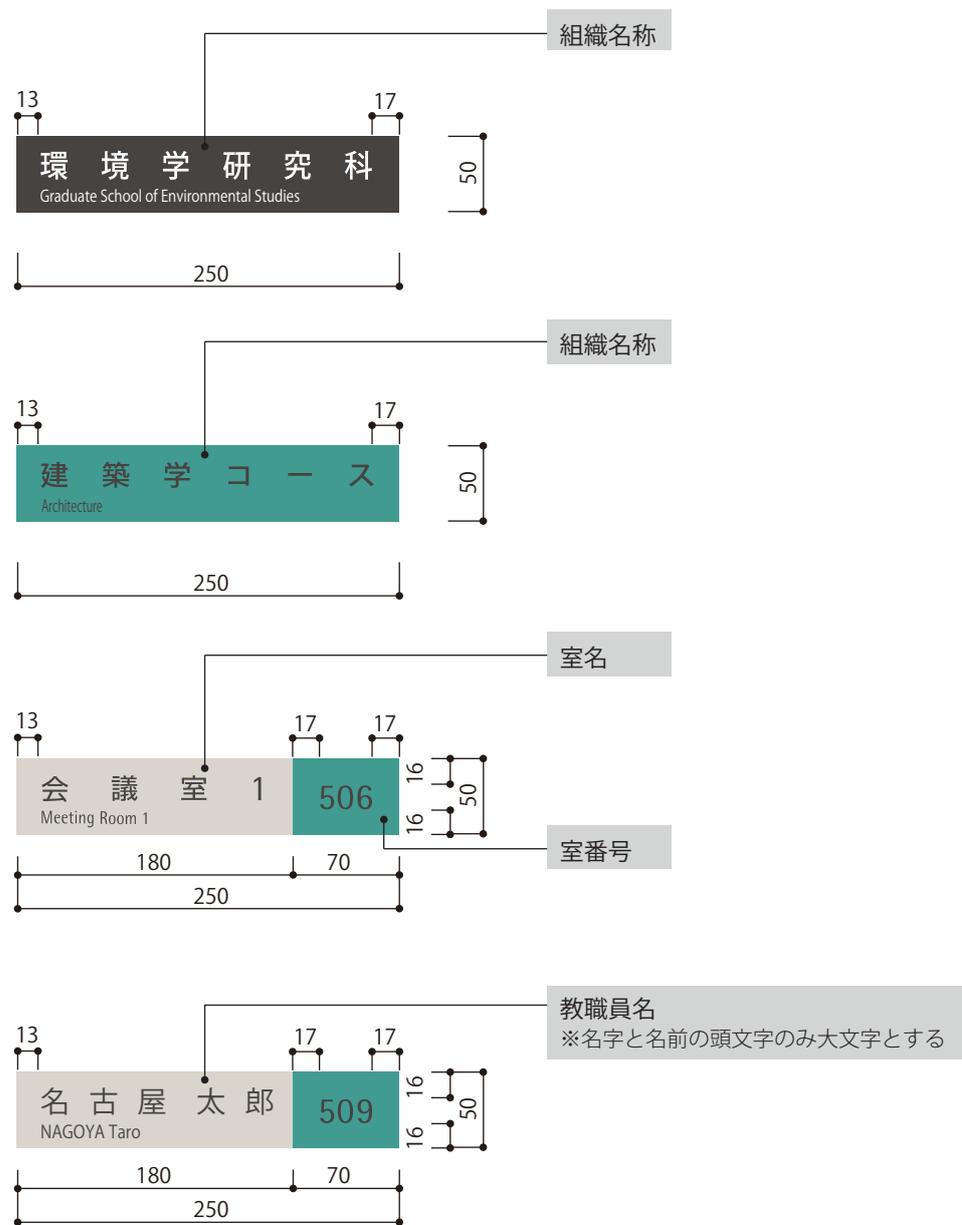


図 5-4 着脱式プレートサイン

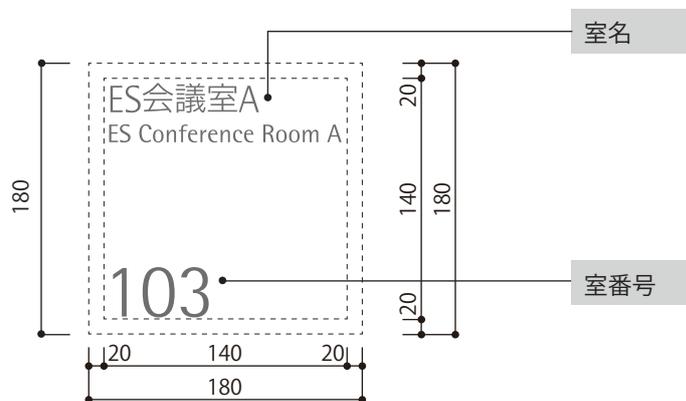


図 5-5 カットニングシートサイン

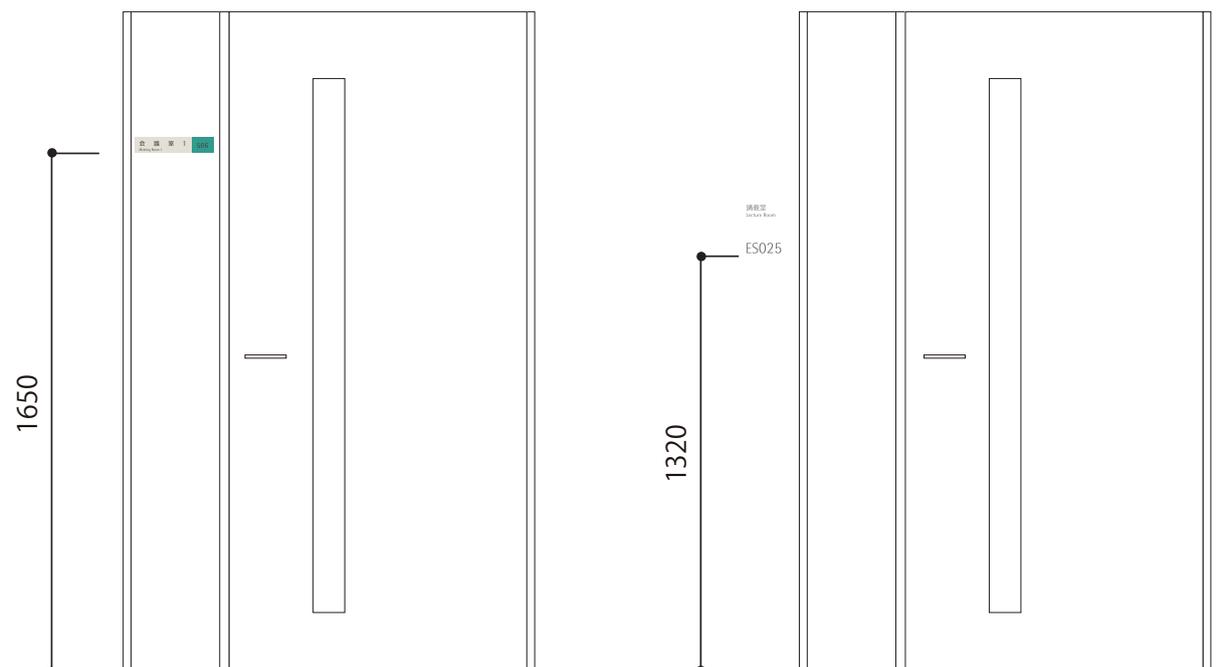


図 5-6 室名サイン 設置位置

5-4 ピクトサイン

トイレ、ゴミ箱などの場所の確認を目的としている。

(1) 設置する壁面

- ・塗装されている壁面についてはカットニングシートサインを用いる。
- ・コンクリート打ち放し等の塗装されていない壁面に関しては、ステンレスヘアライン仕上げのプレートによるステンレスサインを使用する。
- ・視認性が低い場合には壁面からの突き出し形式を使用する。

(2) 設置位置 (図 5-7)

- ・床面から高さ **1650mm 程度 (上端)** の位置に設置する。

(3) 構成内容 (図 5-8)

- ・ピクトグラムのみで構成する。
- ・3章4節で定めたピクトグラムを用いる。

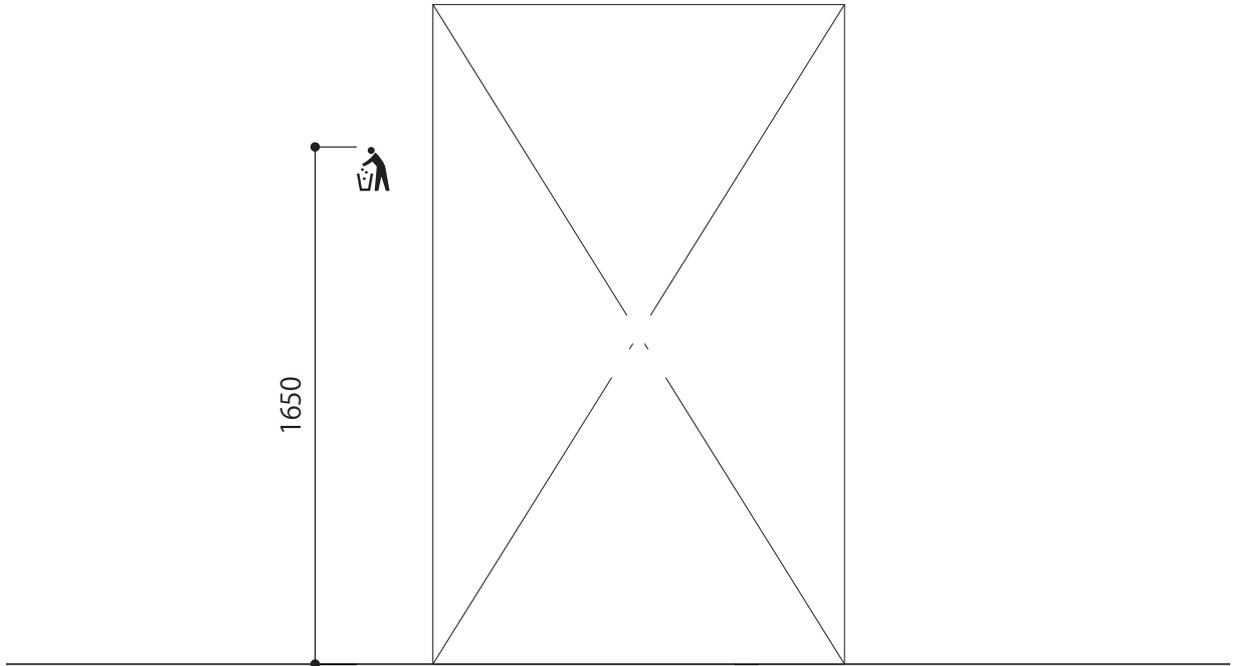


図 5-7 ピクトサイン設置位置



カッティングシートサイン



ステンレスサイン

図 5-8 ピクトサイン 寸法

その他案内サイン

Regulation and Advertisement Sign

- 6. 1 | 規制サイン
- 6. 2 | 交通標識
- 6. 3 | イベント情報掲示板
- 6. 4 | 広告サイン・サークル看板等
- 6. 5 | モニュメント
- 6. 6 | 危険物表示サイン
- 6. 7 | 省エネ啓発サイン



本章では、規制サイン・交通標識・イベント情報掲示板・広告サイン・モニュメント等について、それぞれのサインの設置位置と構成内容（色彩や寸法等）のデザイン基準を定める。

6-1 規制サイン

規制サインは名古屋大学東山キャンパス全域における歩行者向けの規制表示を目的としている。整備・維持・更新は原則として本部で行う。

(1) 設置位置

- ・キャンパス内の美観に十分配慮して、規制が必要な位置に適宜設置する。

(2) 構成内容（図 6-1）

- ・禁煙、駐輪禁止等は各規制に対応するピクトグラム、規制名称で構成する。
- ・下地は、ダークグレー（C59M50Y45K0）で表記する。
- ・原則的にはポールに取り付け、独立設置とする。
- ・名大マークを記載する。

①ピクトグラム

- ・3章4節で定めたピクトグラムを用いる。

②規制名称

- ・文字の大きさは日本語で 55mm 程度、英語で 25mm 程度とする。
- ・文字の太さは日本語で B、英語で R とする。
- ・中央配置とする。
- ・文字記載量に応じて適宜サイズの調整を行う。



図 6-1 規制サイン 寸法

6-2 交通標識

交通標識は名古屋大学東山キャンパス全域における自動車向けの規制表示を目的としている。整備・維持・更新は原則として本部で行う。また、学内交通ルールの変更などに合わせて適宜、現状を調査し、修正および撤去を行う。

(1) 設置位置

- ・キャンパス内の美観に十分配慮して、規制が必要な位置に適宜設置する。

(2) 構成内容 (図 6-2)

- ・ピクトグラムのみでの表示とする。
- ・基本的にはポールに取り付け、独立設置とする。
- ・3章4節で定めたピクトグラムを用いる。
- ・ポールには他の交通系サインを取り付けることも可能とする。

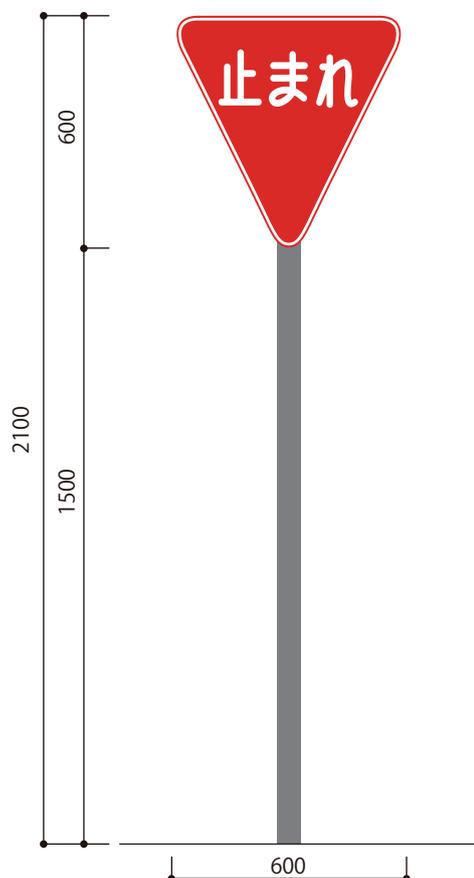


図 6-2 交通標識 寸法

6-3 イベント情報掲示板

大学内における講演情報・講義情報等の告知を目的とする。

屋内イベント掲示板

(1) 設置位置

- ・キャンパス内の公開施設等、主要な建物のエントランスホールに設置する。

(2) 構成内容 (図 6-3)

- ・原則として電子掲示板 (屋内液晶画面) とする。
- ・寸法は、適宜調整するものとするが、幅 2000mm、高さ 1000mm を目安とする。
- ・名古屋大学のロゴマークを記載する。

(3) 運用方針

- ・現在、地下鉄名古屋大学駅に設置・標示されているような本部広報室で作成した全学的イベント情報のデータを活用し、その他に部局等で必要な情報を掲載する場合は、各部局等で作成・更新する。なお、メンテナンスについては協議していくこととする。



図 6-3 屋内イベント掲示板 参考写真 (名古屋大学・地下鉄構内)

屋外イベント掲示板

学会や講演会等の案内が地下鉄入口付近に掲示されていないことが多く、掲示がある場合であっても仮設看板となっているのが現状 (図 6-5) であるため、キャンパス入口付近および地下鉄出入口付近に学会や学内イベント用の掲示板を設置する。

自立型屋外イベント掲示板

(1) 設置位置 (図 6-4)

- ・地下鉄出入口に近接し来訪者の目に触れやすい位置とする。

(2) 構成内容 (図 6-6, 図 6-7)

- ・原則として A0 ポスターが掲示できる寸法の強化ガラスによるものとする。

(3) 設置期間等

- ・当該イベントの 1 ヶ月程度前から最終日までとする。設置・撤去・清掃等の運用については検討する。



--- 屋外イベント掲示位置(3箇所)

図 6-4 屋外イベント掲示板設置位置 (案)



図 6-5 屋外サイン現状



図 6-6 屋外イベント掲示板 イメージ

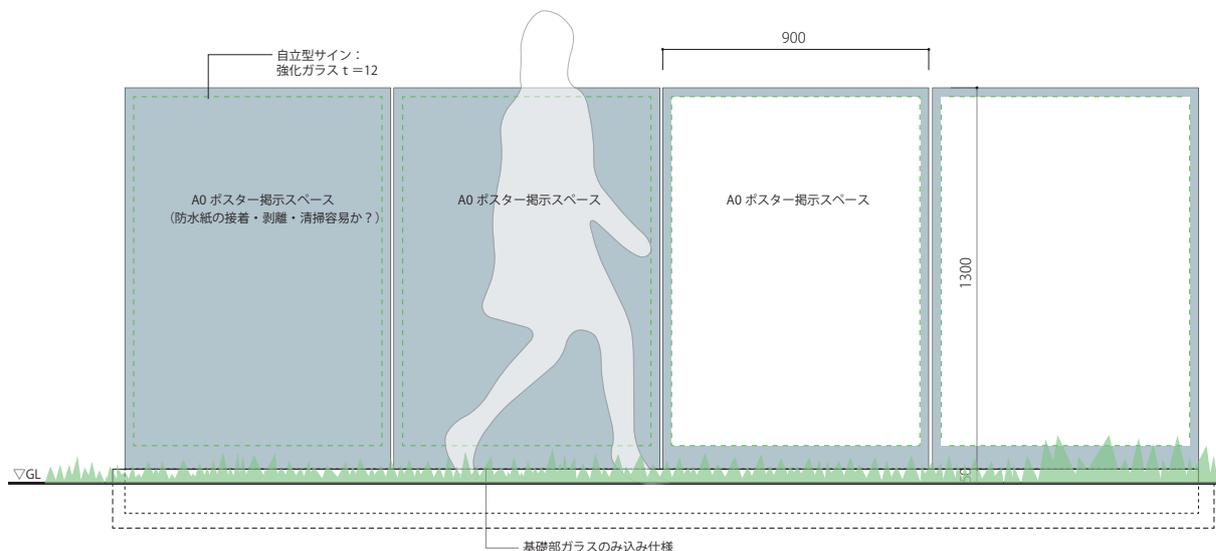


図 6-7 屋外イベント掲示板 寸法

壁持出型屋外イベント掲示板

(1) 設置位置 (図 6-8)

- 主な交通手段として利用される地下鉄から、所属者の多い理系地区への出入口となる I B 電子情報館側の地下鉄出入口付近に設置する。

(2) 構成内容 (図 6-9)

- 原則として A1 ポスター 2 枚および全学案内サインを掲示できる寸法のステンレス板による。
- 仕様：壁面持出設置、ベース：ステンレス板、掲示貼付方式：上下マグネットバー
全学案内図：カットティングシート貼

(3) 設置期間等

- 自立型屋外広告イベント掲示板に倣う。



図 6-8 I B 館側地下鉄出入口付近 現状



図 6-9 屋外イベント掲示板 イメージ図

6-4 広告サイン・サークル看板等

展示室等屋外サイン

(1) 設置位置

- ・建物内に展示室が設置される場合、多くの来訪者への誘導・利便を図るため、建物名サインとは別に展示室等屋外サインを設置する。この際、サインの氾濫を防ぐため、サインの設置は最低限の数となるようにする。

(2) 構成内容 (図 6-10)

- ・デザインは本マニュアルの規定を踏襲する。
- ・脚部はステンレスヘアライン仕上げを基本とする。
- ・着色部は焼き付け塗装を基本とする。

サークル看板

- ・学生の設置するサークル看板や大学祭等の看板 (図 6-11) は、特に規制の対象としない。

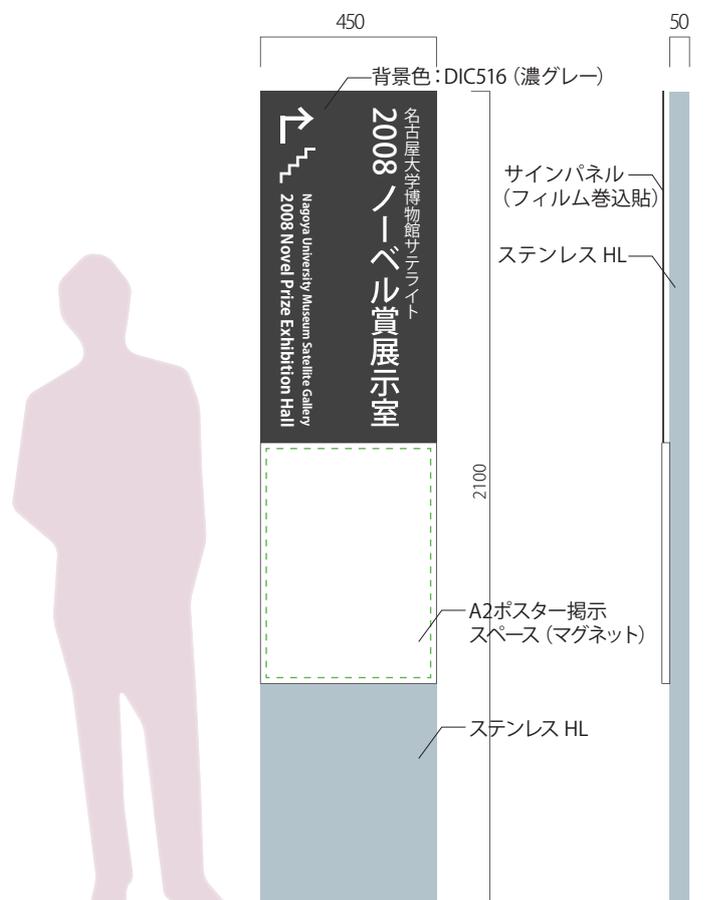


図 6-10 展示室等屋外サイン



図 6-11 サークル看板現況

店舗等屋外サイン

(1) 設置位置

・キャンパス東部では、ES 館南側より東に延びる既設ガラス面に貼り付ける（図 6-13）ことを検討する。また、キャンパス西部で店舗等屋外サインの要望があった場合には、既設の文系地区案内図下部に店舗サインを張り付ける、もしくは自立型ガラス面を有するサイン（図 6-14）を検討する。

(2) 構成内容

・既設ガラス面を下地とする場合は、耐候性屋外用フィルムを貼り付ける。大きさは**450 角程度**として検討する。なお、フィルムは、貼り付け期間に応じて**再剥離タイプ**を使用することとする。夕方以降の視認性を高めるためにも照明の設置検討を要する。

(3) 広告収入

・利用者の利便性への供与と収益確保のため民間業者が設置するサインについては、設置面積に応じた**課金**を検討し、その際、広告料徴収担当部局についても検討を行う。広告収入は設置パネルの**維持管理費等**に当てることとする。また、デザインについては事前に協議の場を持つこととする。

6-5 モニュメント

- ・設置位置：設置にあたっては設置者が施設計画推進室と事前協議の場を持つこととする。
- ・構成内容：デザイン、素材については原則として設置者に委ねるが、行政の定める景観計画を参照することが望ましい。



図 6-12 参考店舗等位置図（施設管理部作成パンフレットより）



図 6-13 店舗等屋外サイン東地区設置案



図 6-14 店舗等屋外サイン西地区設置案

6-6 危険物表示サイン

危険物表示サインは、防災対策を念頭に以下の目的で設置する。

- 1) 実験室使用者に対して：常時存在する危険を知らせ、必要な安全・防災対策を求め、初期消火・被害者救助に必要な装備を示す。
- 2) 外来者に対して：実験室内に存在する危険を知らせ、不必要な入室を断り、入室に必要な装備を知らせる。
- 3) 施設管理者（部局・本部）に対して：研究室・建物の防災・安全対策の策定基準に用い、災害時の避難誘導・被害判定・二次災害の防止対策の策定資料として用い、法令に基づく届け出・点検棟の基礎資料として用いる。
- 4) 消防隊・レスキューに対して：活動方法の参考情報として示し、二次災害防止を図る。

整備・維持・更新は原則として各部局で行う。また、室の更新があった場合、「実験室危険物表示WG」の定める規定に合わせて、危険物を有する実験室の扉に適宜、設置または撤去を行う。



図 6-14 危険物表示サイン

6-7 省エネ啓発サイン

2011年3月に発生した東日本大震災以降、膨大なエネルギー使用を前提とした生活から、持続可能な生活への転換が求められており、名古屋市内で最大規模の電力使用事業所である名古屋大学でも教育研究の活力を維持しつつエネルギー使用に対する戦略が求められている。一方、名古屋大学では名古屋大学環境方針の中で環境負荷低減を謳うとともに、二酸化炭素排出量の削減目標を設定している。東日本大震災以降、名古屋大学総長が発した緊急声明では、1) 省エネ実行のための体制整備、2) 省エネ施策の前倒し・強化・追加、3) 大学構成員の知識と意識の向上、4) 本学のエネルギー使用状況に関する情報発信が表明されたが、特に3)においては、教職員や学生が主体的に省エネに取り組むことができるよう、エネルギー問題と省エネに関する啓発活動を行うことが謳われた。そこで、緊急声明を受けて2012年9月現在、学内では照明スイッチやエアコンスイッチのプレートに下に示すようなサインが貼り付けられている。しかし、これらのデザインや設置場所、経費負担、サインマニュアルとの関連、サインの種類（室温管理、照明入り切り、エレベーター使用抑止、便座ヒーター停止、エアータオルなど）といった様々な項目に関する問題点が指摘されており、今後さらなる検討を行うこととする。



図 4-15 省エネ啓発サイン事例および張り付け事例

6-8 緊急時連絡先サイン

名古屋大学では、内線 110 番もしくは 119 番にて本部守衛室につながり、緊急時、救援・緊急車両の誘導を依頼することができるが、特に学生や若手教職員において連絡先の周知が低い状況にある。戸外夜間での緊急時には外線や携帯電話を通じて守衛室にかける必要があるが、多くの学生・教職員への周知はさらに低い。外部・内部空間においてキーポイントになる場所を候補地として、環境安全衛生管理室との協議の上、場所を選定し、インクジェットシート貼り付けタイプとして緊急時連絡先サインを設置する。



図 4-16 緊急時連絡先サインと貼付イメージ

資料編

Reference



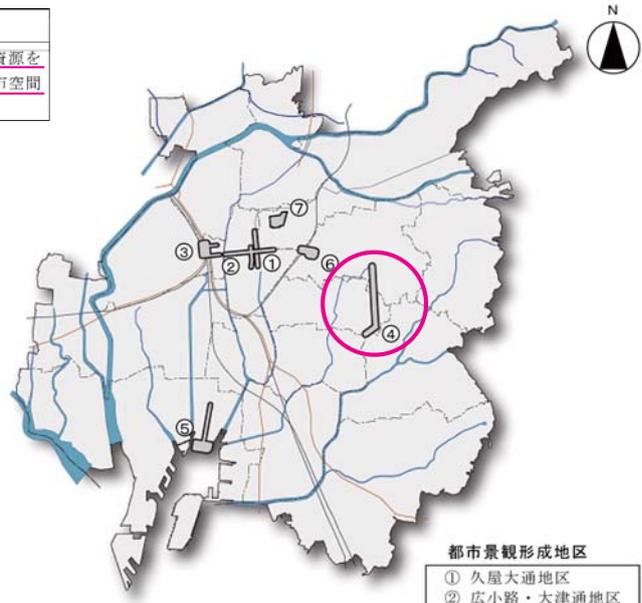
□名古屋市景観計画

名古屋市景観計画において名古屋大学地区は四谷・山手通都市景観形成地区に該当し、サインに関連して下記の制限が定められている。

地区名	基本方針
四谷・山手通地区	坂・緑・曲線を描く街路、社寺や店舗、大学などの資源をいかし、自然・歴史・文化を大切にしながら感性豊かな都市空間とします。

④ 四谷・山手通都市景観形成地区

基本事項	<p>ア 広告物は、質の高い魅力的なデザインとする。</p> <p>イ 広告物の形態、意匠、色彩、大きさ、位置などは、街並みと調和したものとし、秩序ある掲出を行う。</p> <p>ウ 広告物は自家用広告物とする。ただし、商店街振興組合又はこれに準ずる団体が設置するもので、都市景観形成地区に指定されている四谷・山手通地区の街並みに調和するよう景観上十分な配慮がされていると市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p>
色彩など	<p>ア 都市景観形成地区に指定されていることに配慮し、鮮やかな色は、使用する面積を抑え、アクセントとして効果的に用いるなど注意して使用する。</p> <p>① 表示面上端の高さを地上10m以上とする場合又は表示面積が10㎡を超える場合は、以下のとおりとする。ただし、街並みとの調和に十分な配慮を行うもので、市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩度14を超える色は使用しない。 ・彩度12を超える色は、表示面積の1/3以上又は地色には使用しない。 <p>ウ 補色関係など刺激の強い配色をする場合は、彩度を下げるなど注意して使用する。</p> <p>エ 文字や図柄は、バランス良く配置する。また、雑然とした印象を与えないよう、使用する色数や文字の量に注意する。</p>
照明など	<p>① 点滅する広告物、輝度に変化する広告物又は音響を伴う広告物は設置しない。ただし、周辺環境への十分な配慮を行うもので、公共性の高いものや景観上デザインが優れていると市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p> <p>イ 周辺の景観を損なわないように、広告照明の方向及び照度などは十分注意する。</p>
電光表示装置	<p>① 電光表示装置を使用する広告物は設置しない。ただし、表示に動きがないなど、周辺環境への十分な配慮を行うもので、市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p>
屋上広告	<p>① 屋上広告は、本山交差点及び八事交差点の商業地域を除き、設置しない。ただし、1つの表示面の表示面積が5㎡以下で、下端の高さが5m以下のものについては、この限りでない。</p> <p>イ 建築物と一体性のあるデザインとなるよう努める。</p> <p>② 広告物の高さは、9m以下かつ、建築物の高さの1/3以下とする。また、広告物の横幅の1.5倍以下とし、安定感のあるデザインとする。ただし、景観上デザインが優れていると市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p> <p>③ 骨組み、支柱などの構造体は、目立たないようにする。</p>
壁面広告	<p>① 表示面積の合計は、一壁面につき壁面積の1/10以下とする。ただし、一壁面の面積が100㎡未満の建築物については、10㎡以下とする。</p> <p>イ 建築物の2階以上の階には、窓面を利用した広告物は設置しない。ただし、やむを得ず設置する場合は、切り抜き文字を使用するなど、景観上の配慮を行う。</p>
突出広告 （山手グリーンロード又は一般国道153号に面するもの及び景観こみち地区に設置するものに限る）	<p>① 突出幅は、建築物の壁面から1m以下とする。</p> <p>② 1つの表示面の表示面積は、5㎡以下とする。</p> <p>③ 山手グリーンロード又は一般国道153号に面するもの下端の高さは、2.5m以上とする。</p> <p>④ 景観こみち地区に設置するものは、道路上空に突き出さない。上端の高さは、地上から20m以下とする。ただし、景観上デザインが優れていると市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p> <p>カ 一壁面には、一列にまとめて設置する。ただし、1つの表示面の表示面積が0.8㎡以下で、下端の高さが2.5m以上のものについては、この限りでない。</p> <p>キ 一列にまとめて設置する突出広告の形態、意匠、色彩などは、統一感のあるものとするよう努める。</p>
地上広告	<p>① 地上からの高さは10m以下とし、1つの側面の表示面積の合計は15㎡以下とする。ただし、街並みとの調和に十分な配慮を行うもので、市長が特に認めたものについては、この限りでない。</p> <p>② 山手グリーンロード又は一般国道153号上空に突き出すものは、下端の高さを2.5m以上とする。</p> <p>③ 景観こみち地区に設置するものは、道路上空に突き出さない。</p>
飾り看板	<p>通りの景観を演出するため、可能なかぎり洗練された飾り看板を設置する。</p>
置き看板・広告旗など	<p>置き看板、立看板、広告旗（のぼり旗）は道路上に設置しない。</p>



景観計画区域
市内全域

都市景観形成地区

- ① 久屋大通地区
- ② 広小路・大津通地区
- ③ 名古屋駅地区
- ④ 四谷・山手通地区
- ⑤ 築地地区
- ⑥ 今池地区
- ⑦ 白壁・主税・榎木地区

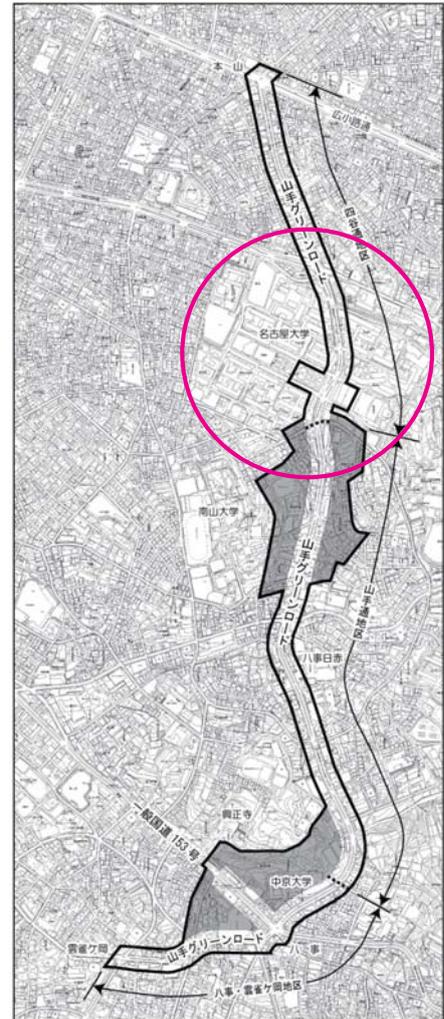


図 名古屋市景観計画抜粋図

□高度地区

極端な高層建築物を制限し、市街地の秩序ある良好なまちなみを形成するため、建物の高さを都市計画として制限するものに「高度地区」がある。下記のように、名古屋市では名古屋大学地区を31 m高度地区として定めている。

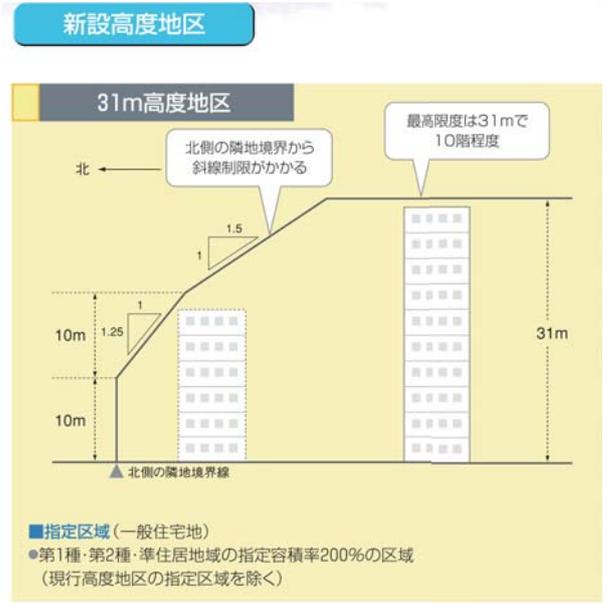
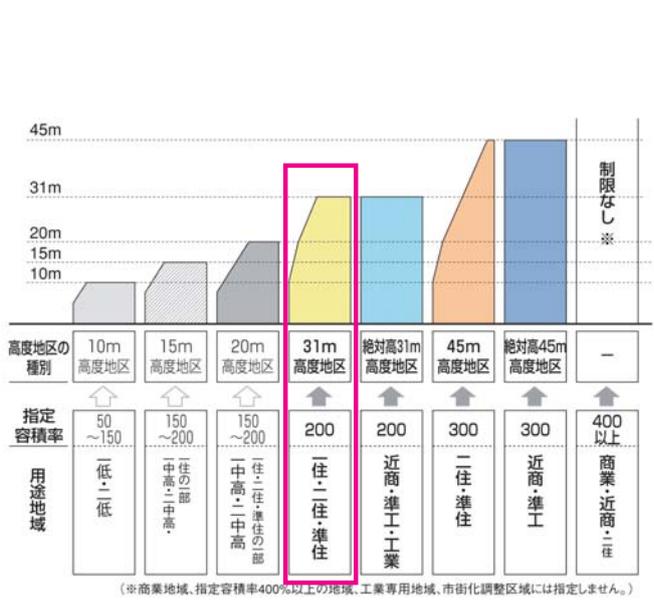
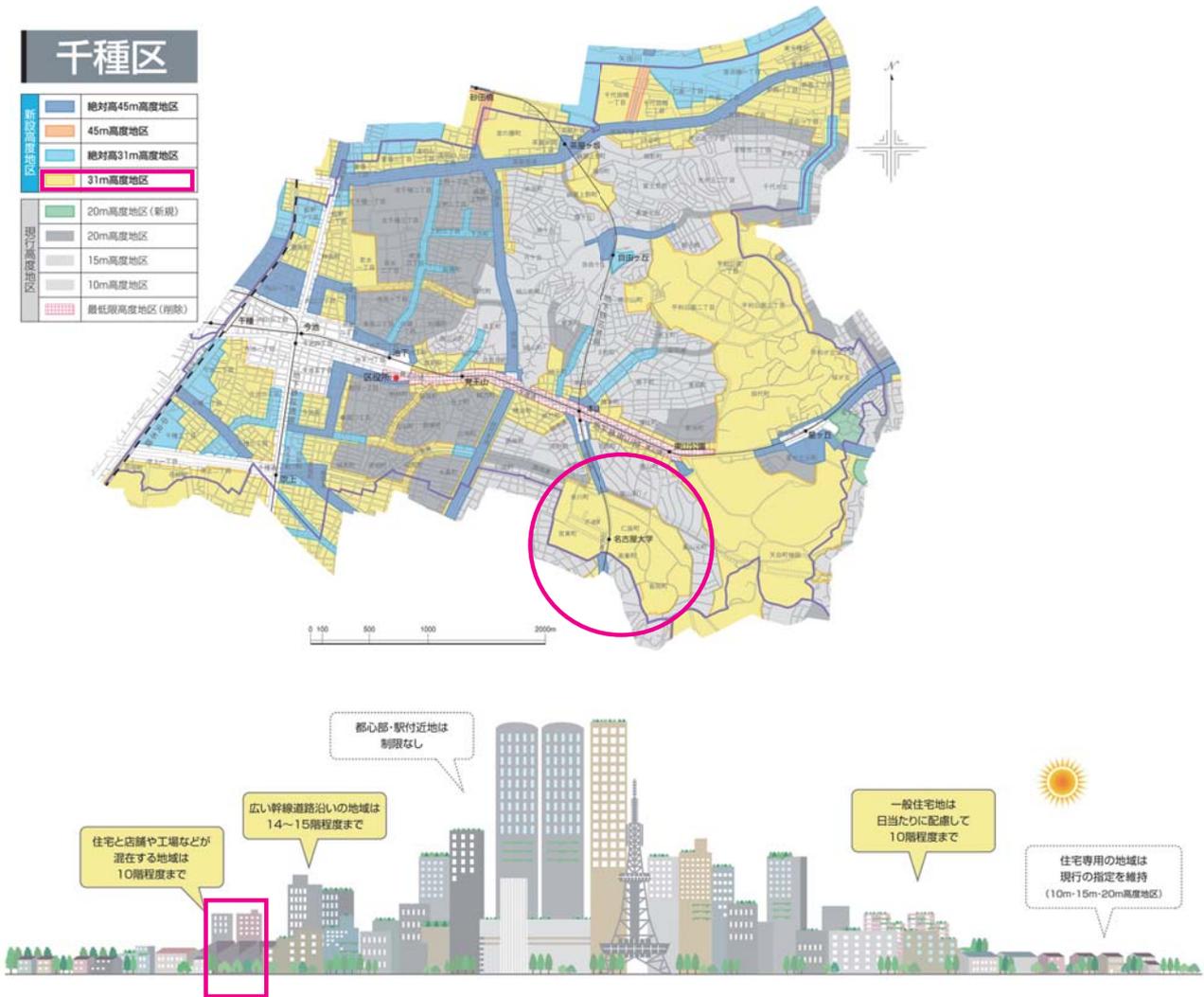


図 高度地区抜粋図

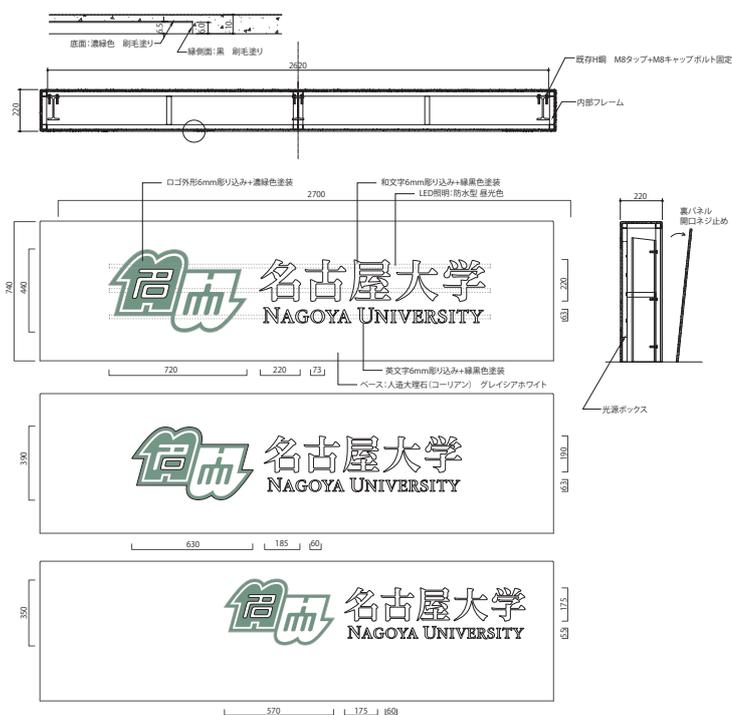
□校名サイン（案）

2-7 校名サインで明らかにした課題としてフォントや剥がれなどの問題を挙げたが、以下にこうした課題を解決するための提案を行う。

現在設置されているパネルおよび溝型鋼を撤去し、人造大理石（コーリアン）を箱形に成形し据え付ける提案である。文字部分は彫り込み加工を行い、NU マーク部は底面に濃緑色を塗布し、文字部は側面に黒色塗装を施す。夜間、内部に組み込んだ LED 照明が彫り込み部分を浮かび上がらせる。名古屋大学東山キャンパスのイメージとしてのモダニズム建築の造形をサインの形態として用いる。エコキャンパスの思想を継承し、上部に太陽光パネルを組み込み、昼間に蓄電し、夜間にライトアップを行う方針とする。



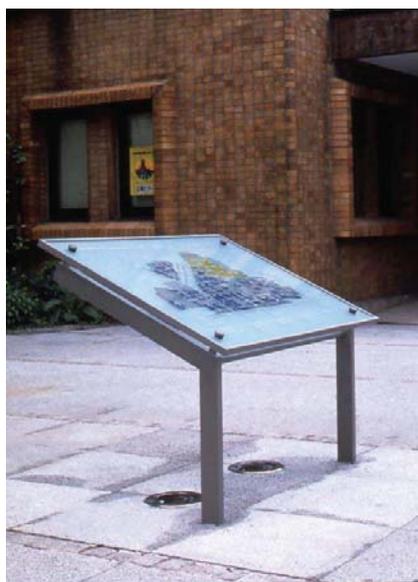
□提案イメージ



□レイアウトイメージ

□他大学サイン事例

>> 東京大学



>> 東北大学



>> 東京工業大学



>> 横浜国立大学



>> 早稲田大学



名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2012

発行 | 国立大学法人 名古屋大学

企画・編集 | 施設計画推進室・工学部施設整備推進室・広報室・施設管理部

担当 | 施設設備・環境安全担当理事（兼事務局長） 竹下典行

前施設設備・環境安全担当理事（兼副総長）（現財務担当理事） 藤井良一

国際・広報担当理事（兼副総長） 渡辺芳人

施設計画推進室 谷口元・脇坂圭一

工学部施設整備推進室 恒川和久・太幡英亮

広報室

施設管理部

発行日 | 2013年3月（初版第1刷）

名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2012

Nagoya University Campus Sign Manual 2012



- 1 | 基本理念
- 2 | サインの現状把握と課題
- 3 | 共通デザインガイドライン
- 4 | 外構サイン
- 5 | 建物内サイン
- 6 | その他案内サイン
- 7 | 資料編